

## 4 - 2 行動科学

### 研究・教育活動の概要と特色

1983年に設置された行動科学研究室は、社会学をはじめ、心理学・言語学・人類学・政治学・経済学など多くの専門分野と対象領域を共有すること、人間行動や社会現象の解明に科学的方法、とりわけ数理的・計量的方法を適用すること、の2点を掲げ研究・教育を実践してきた。過去5年に関しては、21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」(2003年度～2007年度)、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」(2008年度～)、「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」(2004年度～2007年度)、「教育と社会に対する高校生の意識 第6次調査」(2007年度)、「学校生活と社会に対する高校生の意識 第1回、第2回調査」(2009年度～2010年度)、「現代日本の階層状況の解明 ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」(2008年度～2010年度)、「グローバリゼーションの進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動に関する融合的研究」(2011年度～)など、本研究室が推進してきた行動科学的手法をより広く適用、発信する機会に恵まれた。

上記の調査研究プロジェクト等を通じて、教員はじめ、大学院生や学生は、社会階層や環境問題、教育など、さまざまな社会事象に数理・計量的アプローチを試みている。数理・計量的研究の専門家を揃えた講座の研究・教育体制は全国的にも高い評価を得ており、本研究室の創設者である西田春彦教授の描いた「東北に数理・計量社会学のメッカを作る」という夢が現実のものとなりつつある。

なお、2008年3月をもって海野道郎が定年退職した(現在は東北大学教養教育院総長特命教授)が、2008年4月に浜田宏が准教授として就任した。また2009年3月をもって原純輔が定年退職した(現在は放送大学宮城学習センター所長)。さらに、2010年4月には、本郷正武助教が和歌山県立医科大学に専任講師として転出した。一方、2011年4月に永吉希久子が准教授として就任した。

## 組織

### 1 教員数（2011年9月末現在）

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：0

教授：佐藤嘉倫、木村邦博

准教授：浜田 宏、永吉希久子

### 2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
46	3	8	11	0

### 3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	16	3	0
08	20	6	1
09	15	1	1
10	11	5	0
11	0	0	1
計	62	15	2

\* 2011年度は、9月末までの数字

## 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	0	0

08	2	1	3
09	1	0	1
10	0	0	0
11	1	0	1
計	4	1	5

\* 2011年度は、9月末までの数字

## 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

渡邊裕子、2008年度、『社会福祉における介護時間の研究へのタイムスタディ調査の応用』（論文博士）

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・吉原直樹、教授・佐藤嘉倫、准教授・下夷美幸

佐藤智子、2008年度、『地方自治体の姉妹都市交流に関する実証的研究 継続的交流を可能ならしめる要因』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・原純輔、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏

井出知之、2008年度、『社会階層と政党支持意識の質的変動 「支持政党なし」意識を中心に』

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・佐藤嘉倫、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏

林雄亮、2009年度、『階層社会日本の現在 不平等化の再検討に関する計量社会学的研究』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、名誉教授・原純輔、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏

塩谷芳也、2011年度、『職業威信尺度と階層的地位志向 ミクロナ個人が持つ職業的地位認知に着目して』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・正村俊之、准教授・浜田宏

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 （学会誌等）	非審査制誌 （紀要等）	論文集 （単行本）	その他	計
07	2	1	0	0	3

08	6	5	0	9	20
09	3	0	0	2	5
10	9	1	7	2	19
11	10	3	6	7	26
計	30	10	13	20	73

\* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

## 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	2	27	0	0	29
08	11	11	0	0	22
09	12	17	7	0	36
10	17	12	2	0	31
11	2	9	3	0	14
計	44	76	12	0	132

\* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

[ 朝岡誠 ]

朝岡誠、「誰が「解き放たれる」のか? : エージェント・ベスト・モデルによる信頼生成メカニズムの検討」籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究: 秩序問題的アプローチ』平成17年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2008年

\* 朝岡誠、「評判は信頼を生成するか? —信頼生成メカニズムの経験的検証」『社会学研究』86号、pp.121-141、2009年

\* 朝岡誠、「ワンステップ内で伝わる評判の効果」『理論と方法』26巻1号、pp.17-29頁、2011年。

[ 安達智史 ] (2010.4～2011.6)

\* 安達智史、「ブリティッシュネスの解体と再想像—ポスト権限委譲におけるナショナルおよびサブナショナル・アイデンティティ」『社会学年報』、39号、pp51-62、2010年

\* 安達智史、「新労働党の『テロリズム防止』政策の批判的検討——ポスト・テロ時代の社会統合について」『フォーラム現代社会学』10号、pp.135-147、2011年

\* 安達智史、「フランスとイギリスにおける社会統合の比較——伝統・政治・実践に着目して」『コロキウム』6号、pp.74-92、2011年

\* 安達智史、「グローバル化時代における社会統合政策について——フランスとイギリスのスカーフ論争の比較を通して」『社会学研究』89号、pp.85-109、2011年

Adachi, Satoshi, "Reflexive Modernity and Young Muslims: Identity Management in a Diverse Area in the UK," in Kimura Kunihiro ed., *Minorities and Diversity*, Australia: Trans Pacific Press, 83-99, 2011.

[ 井出知之 ] (2007.4~)

\* 井出知之、「社会階層論における政治意識 社会構造と政治変動」『選挙研究』27巻1号、pp.72-84、2011年

井出知之・村瀬洋一、「第7章 社会階層と政治関与 社会的地位の効果は否定できるか」盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』白桃書房、印刷中

[ 稲垣佑典 ] (2007.4~)

\* 稲垣佑典、「都市部と村落部における信頼生成過程の検討」『社会心理学研究』、25巻2号、pp.92-102、2009年

稲垣佑典、『社会ネットワーク的アプローチによる転職と階層構造の分析』『現代日本の階層状況の解明 ミクロ - マクロ連結からのアプローチ 第1分冊 社会階層・社会移動』科学研究費補助金 基盤研究 (A) 研究成果報告書 (課題研究番号:20243029)、pp.211-222、2011年

[ 恵羅さとみ ] (2009.4~2010.3)

恵羅さとみ、「建設業における移民日雇い労働者の拡大と労働者の保護・組織化—産業構造の変容とワーカーセンターの機能に着目して」小井土彰宏 (代表研究者) 『転換期のアメリカ合衆国移民政策の社会学的分析—9.11事件以降の入管政策の強化と「非合法」移民への対応』(平成16年度~平成18年度科学研究費補助金 基盤研究 B2 (海外) 研究成果報告書)、第5章: pp.137-193、2009年

[ 金澤悠介 ]

- \* Kanazawa, Yusuke “The Promotion and Evolution of Cooperation through Projection: Implications for Social Dilemmas and Trust,” *Journal of Mathematical Sociology*, 31(2): 187-204, 2007
- 金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての3つの仮説—地域比較による予備的分析」 籠谷和弘（編）『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』平成17年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: pp.133-151、2008年
- 金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての3つの仮説—個人データによる検討」 籠谷和弘（編）『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』平成17年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: pp.153-170、2008年
- 金澤悠介、「社会関係資本と一般的信頼の生成—二つの仮説の経験的検証と新たな仮説の提示」『社会学研究』、84号、pp.45-68、2008年
- 金澤悠介、「信頼と社会参加に関する地域比較—社会調査による検討」『東北文化研究室紀要』、49号、pp.15-27、2008年
- 金澤悠介、「書評『ソーシャル・キャピタル 社会構造と行為の理論』ナン・リン著、筒井淳也他（訳）、ミネルヴァ書房」『理論と方法』24巻2号: pp.367-370、2009年
- ケン・ビンモア著、海野道郎・金澤悠介（訳）、『ゲーム理論（一冊でわかる）』岩波書店、（原著 Binmore, Ken. 2007. *Game Theory: A Very Short Introduction*. Oxford University Press.）、2010年
- 金澤悠介、「第12章 2つの質的変数の関連を見る：関連係数」廣瀬毅士・寺島拓幸（共編著）、『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年
- \* 椎名久美子・當山明華・デメジャン・アドレット・木村拓也・吉村宰・倉元直樹・金澤悠介、「個別大学のアドミッションセンターで入試研究を行う上での問題点の認識及び解決策の共有化について(2) 平成20～21年度『個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会発表要旨集』」『大学入試センター研究紀要』、39号、2010年
- \* 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系大学の量的拡大に伴う大学入試設計の問題」『東北大学高等教育開発推進センター紀

要』5号、2010年

[川嶋伸佳] (2011.4~)

\* 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」『社会心理学研究』(印刷中)、2011年

\* 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、「社会的不平等とミクロ公正感：不公正感受性の効果」『法と心理』(印刷中)、2011年

Kawashima, N, "Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization Mechanisms," K.Ohuchi and N. Asai eds. *Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation*. Melbourne: Transpacific Press (印刷中), 2011.

[吉良洋輔] (2009.4~)

河村和徳・吉良洋輔,「第1章 交渉参加・合併枠組みと市町村合併」河村和徳著『市町村合併をめぐる政治意識と地方選挙』、木鐸社、2010年

\* 吉良洋輔・河村和徳,「ゲーム理論による市町村合併定式化の試み」『公共選択の研究』、56号、pp.31-47、2011年

[佐藤智子] (2007.4~2009.3)

\* 佐藤智子・佐々木肇、「釜石市とディーニュ・レ・バン市との姉妹都市交流に関する一考察」『総合政策』、9巻2号、pp.103-125、2008年

\* 佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流の継続性の条件」『社会学研究』、84号、pp.177-198、2008年

[塩谷芳也] (2005.4~)

塩谷芳也、「ライフストーリーからみる自営業層への参入経路」『文化』、72巻2号、pp.42-61、2008年

\* 塩谷芳也、「職業の社会的地位の認知と地位志向」『社会学研究』85号、pp.109-131、2009年

\* 塩谷芳也、「職業的地位の構成イメージと地位志向 職業の社会的地位の全体像に関する認知に着目して」『理論と方法』、47号、pp.65-79、2010年

\* 塩谷芳也、「高校生の性行動とセルフ・エスティーム」『社会学研究』、88号(印刷中)、2010年

- Shiotani, Yoshiya “The Effect of Social Stratification Image on Status Orientation,” *Studies of Social Stratification in Contemporary Japan: From the Perspective of Micro-Macro Linkages 3 Social Consciousness and lifestyle*, The 2005 SSM Research Committee: 75-89, 2011
- Shiotani, Yoshiya “Invisible Inequality: Occupational Prestige,” Ken-ichi Ohbuchi and Nobuko Asai (Eds.) *Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation*, Melbourne, Transpacific Press: 65-84, 2011 (in Press).
- [ 鈴木伸生 ] ( 2009.4 ~ )
- 鈴木伸生、「大卒就職における OB 利用の効果と機会格差」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』No.40、pp.1-11、2011 年
- [ Chihaya da Silva、Guilherme Kenjy ] ( 2009.4 ~ )
- 千早健次、「配偶者選択における第三者からの結婚相手の紹介と学歴同類婚 —EASS 2006 の日本と中国のデータから」、『日本版 General Social Surveys 研究論文集』10 号、pp.173-181、2010 年
- [ 針原素子 ] ( 2005.4 ~ 2011.3 )
- 辻竜平・針原素子、「ネットワーク理論から見た野沢温泉の活性化 観光関係者へのインタビューをふまえて」籠谷和弘編『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』（平成 17～19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書）、pp.125-134、2008 年
- \* 辻竜平・針原素子、「新潟県中越地震におけるパーソナル・ネットワークと一般的信頼の変化—震災前後のパネル調査を用いて」『社会学研究』84 号、pp.69-102、2008 年
- 針原素子、「日本人の自己卑下的自己呈示に関するネットワークモデルの構築」東京大学大学院文学研究科博士論文、2008 年
- \* 辻竜平・針原素子、「中学生の人間関係の認知・評価と一般的信頼」『理論と方法』25 巻 1 号、pp.31-47、2010 年
- [ 林雅秀 ] ( 2007.4 ~ )
- 林雅秀、「森林所有者の手入れ実施に対する意向分析」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』、pp.31-35、2008 年



- 林雅秀、「林家の意欲を向上させる取り組み事例」林野庁編『森林吸収源  
目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告  
書』、pp.36-57、2008年
- 林雅秀、「グローバル化時代における林政研究の課題」『林業経済研究』  
54巻2号、pp.55-57、2008年
- \* 西園朋広・田中邦宏・栗屋善雄・大石康彦・林雅秀・横田康裕・天野智将・  
久保山裕史・八巻一成・古井戸宏通、「秋田地方のスギ人工林におけ  
る林分材積成長量の経年推移」『日本森林学会誌』90号、pp.232-240、  
2008年
- \* 林雅秀・天野智将、「素材生産業者のネットワークが森林管理に与える影  
響」『社会学評論』61巻1号、pp.2-18、2010年
- 林雅秀・三須田善暢・庄司知恵子・高橋正也「地域の文化の発掘：歴史に  
埋もれた漆器生産」『フォレストウィンズ』42号、pp.1-2、2010年
- \* 林雅秀・岡裕泰・田中亘、「森林所有者の意思決定と社会関係：取引費用  
経済学の視点から」『林業経済研究』57巻2号、pp.9-20、2011年
- \* 林雅秀、「シイタケ農家の被災：岩手県下閉伊郡田野畑村から」『林業経  
済』64巻5号、pp.20-22、2011年
- [ 林雄亮 ] (2005.4 ~ 2011.3)
- 林雄亮、「『格差社会』における社会意識—2006年格差と不平等に関する  
仙台市民意識調査の概要」『東北文化研究室紀要』48号、pp.1-14、2007  
年
- \* 林雄亮、「現代日本社会における格差意識」『社会学年報』36号、pp.189-209、  
2007年
- 林雄亮、「現代日本社会の多元的階層システム」佐藤嘉倫編『2005年SSM  
調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』pp.153-170、2008年
- 林雄亮、「日本における転職と賃金変化の時代的変遷」佐藤嘉倫編『2005  
年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』pp.83-98、2008年
- \* 林雄亮、「労働市場の流動化と世代内移動の帰結—転職に伴う賃金変化構  
造の時代的変遷」『社会学年報』37号、pp.59-69、2008年
- \* 林雄亮、「現代日本の多元的階層構造」『社会学研究』84号、pp.199-221、  
2008年
- \* 林雄亮、「日韓労働市場の流動性と格差—転職とそれに伴う収入変化の比

- 較分析」『社会学研究』86号、pp.7-31、2009年
- \* 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年報』39号、pp.63-74、2010年
- 林雄亮・佐藤嘉倫、「流動化する労働市場と職業キャリアの格差」、盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』、白桃書房(印刷中)、2010年
- 神林博史・三輪哲・林雄亮、「ジェンダーと職業的不平等」、盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』、白桃書房(印刷中)、2010年
- Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "An Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun Imai ed. *Change in Japanese Welfare-Employment Regime and Inequality*, Trans Pacific Press (印刷中), 2010年
- 林雄亮、「転職時の収入変化—高度経済成長期から2000年代までの構造と変容」、石田浩・近藤博之・中尾啓子編『21世紀の階層システム2』東京大学出版会(印刷中)、2010年
- 佐藤嘉倫・林雄亮、「現代日本の格差の諸相—転職とワーキングプアの問題を中心に」、佐藤嘉倫・尾嶋史章編『21世紀の階層システム1』東京大学出版会(印刷中)、2010年
- 林雄亮・余田翔平、「女性のライフコースの変化 就業・結婚・出産のコーホート間比較」、佐藤嘉倫(編)、『現代日本の階層状況の解明 ミクロ マクロ連結からのアプローチ 第2分冊 教育・ジェンダー・結婚』、科学研究費補助金基盤研究(A)(20243029)成果報告書、229-243、2011年。
- 今井順・林雄亮、「移動レジームの変化についての試論 産業構造転換と規制緩和のなかで」、佐藤嘉倫(編)、『現代日本の階層状況の解明 ミクロ マクロ連結からのアプローチ 第1分冊 社会階層・社会移動』、科学研究費補助金基盤研究(A)(20243029)成果報告書、75-92、2011年。
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," 佐藤嘉倫(編)、『現代日本の階層状況の解明 ミクロ マクロ連結からのアプローチ 第

1 分冊 『社会階層・社会移動』、科学研究費補助金基盤研究(A)  
(20243029) 成果報告書、119-130、2011年。

三輪哲・田辺俊介・岩瀬晋・長松奈美江・大槻茂美・石田光規・林雄亮、  
「SSM 職業分類・産業分類の再検討」、三輪哲(編)、『現代日本の  
階層状況の解明 ミクロ マクロ連結からのアプローチ 別冊 SSM  
職業分類・産業分類の改定に向けて』、科学研究費補助金基盤研究(A)  
(20243029) 成果報告書、1-45、2011年。

Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "An Impact of Change in Household  
Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun  
Imai (eds). Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms  
and Welfare Arrangements, Trans Pacific Press, 119-131, 2011.

[ 余田翔平 ] (2008.4 ~ )

余田翔平、「父不在高校生の生活と意識」木村邦博編『教育と社会に対す  
る高校生の意識—第6次調査報告書』東北大学教育文化研究会、  
pp.137-155、2009年

\* 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年  
報』39号、pp.63-74、2010年

余田翔平、「結婚の不安定性の世代間伝達 - - 父不在と離婚リスク」佐藤  
嘉倫編『現代日本の階層状況の解明 - - ミクロ - マクロ連結からのア  
プローチ 第2冊分 教育・ジェンダー・結婚』(科学研究費補助金  
基盤研究(A)研究成果報告書 研究課題番号:20243029)、pp.277-289、  
2011年

林雄亮・余田翔平、「女性のライフコースの変化 - - 就業・結婚・出産の  
コーホート間比較」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明 - - ミク  
ロ - マクロ連結からのアプローチ 第2冊分 教育・ジェンダー・結  
婚』(科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果報告書 研究課題番  
号:20243029)、pp.229-243、2011年

\* 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年  
報』39号、pp.63-74、2010年

## (2) 口頭発表

[ 朝岡誠 ]

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォー  
マライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会(広  
島修道大学)、2007年9月15日

朝岡誠・塩谷芳也、「人種集団とアスピレーション 相互作用とアスピレ  
ーションのエージェントベーストモデル」数理社会学会大会(広島修  
道大学)、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進  
化 エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社  
会心理学会大会(早稲田大学)、2007年9月22日

朝岡誠・金澤悠介、「コミットメント関係と信頼生成のメカニズム」数理  
社会学会大会(成蹊大学)、2008年3月16日

Kanazawa, Yusuke and Makoto Asaoka, "When do high trusters leave their  
commitment relations?: An exploration through an agent-based model"  
Forth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology in Redondo  
Beach, 1st June, 2008

朝岡誠、「信頼生成のメカニズム いつ信頼が「解き放たれる」のか」日  
本社会学会大会(東北大学)、2008年11月24日

Asaoka, Makoto, "Theoretical study of differences in the desire to learn,  
'Incentive divide'", 第13回 MEE Seminar(明治大学)、2009年12月8  
日

朝岡誠「教育意欲格差の数理モデル分析」数理社会学会大会(立命館大学)  
2010年3月7日

朝岡誠「悪事千里を走る? ワンステップ内の評判の効果」数理社会学  
会大会(沖縄国際大学)、2011年3月9日

朝岡誠「好事門を出でず-なぜ「良い」評判は伝わりにくいのか」数理社  
会学会大会(信州大学)、2011年9月7日

Makoto Asaoka, Yusuke Kanazawa, "Effect of Tolerance of Reputation -Making  
Norms on Corporation in Social Exchanges: An Evolutionary Simulation on  
Social Networks" Japan-Swiss Joint Workshop on Agent-Based Models in  
Sociology at ETH Zürich, Switzerland, 15th, September 2011.

Makoto Asaoka, Yusuke Kanazawa, "Why Does Bad Reputation Have Wings?  
An Exploration through an Agent-Based Model," The 7th Conference of the

European Social Simulation Association (ESSA) at Agropolis International,  
Montpellier, France, 21th September 2011.

[ 安達智史 ] ( 2010.4 ~ 2011.6 )

Adachi, Satoshi, "Approaches to Community Cohesion and Integration in Japan and the UK," Comparing Cohesion and Integration, Japan and the European Union, Institute of Community Cohesion, Institute of Community Cohesion, Tokyo, British Council, February 23rd, 2010.

Adachi, Satoshi, "Reflexive Modernity and Young Muslims: Identity Management in Super-Diverse Area," Social Justice, Social Identity and Intergroup Conflict, International Conference of GCOE, Sendai, Tohoku University, March 6th, 2010. 安達智史、「再帰的近代における若者ムスリムのアイデンティティについて」、関西社会学会大会（名古屋市立大学）、2010年5月30日

安達智史、「イギリスの若者ムスリムの社会意識——グローバルゼーション、再帰性、アイデンティティ」第83回日本社会学会（名古屋大学）、2010年11月6日 Adachi, Satoshi, 2010, "Being Muslim and Being British: Identity Management of Young Muslims," The 10th Asian Pacific Sociological Association Conference, Hyatt Regency Kinabalu, Kota Kinabalu, December 6th, 2010.

Adachi, Satoshi, "Identity Management of Young British Muslims: Differentiation and Adaptation," GCOE Workshop (Tohoku University), December 13th, 2010.

安達智史、「若者ムスリムのアイデンティティ管理——再帰性に着目して」トランス・ナショナル研究会（名古屋市立大学）、2011年5月18日

安達智史、「多文化主義をめぐる論争——再帰性、アイデンティティ・文化」第62回関西社会学会大会（甲南女子大学）、2011年5月29日

安達智史、「アイデンティティと文化の再帰的關係について——リベラルな多文化主義に向けて」第20回グローバル社会理論フォーラム（名古屋大学）、2011年5月31日

安達智史、「外国にルーツを持つ子どもと彼女／彼らを取り巻く世界」知多市にほん語の会（ふれあいプラザ）、2011年6月18日

[ 井出知之 ] ( 2007.4 ~ )

井出知之、「階層帰属意識と階層評価の基準」数理社会学会大会（芝浦工業大学）、2008年8月31日

井出知之、「民主主義的警戒としての『支持政党なし』」日本選挙学会研究会（同志社大学）、2009年5月17日

井出知之、「『支持政党なし』と日本の特殊性」東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月20日

井出知之、「地位評価の基準と階層帰属意識」日本社会学会大会（立教大学）、2009年10月12日

井出知之、「地位と階層帰属意識、その平等主義意識への影響について」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011年3月8日

井出知之、「階層帰属意識は社会的地位と平等主義の媒介変数たりうるか」東北社会学会大会（宮城学院大学）、2011年7月18日

[ 稲垣佑典 ] (2007.4~)

稲垣佑典・辻 竜平、「都市と村落における信頼生成プロセスの検討」日本社会心理学会（早稲田大学）、2007年9月23日

稲垣佑典、「都市と村落における信頼生成プロセス」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月23日

Inagaki, Yusuke, "Trust and trust generating process in urban areas and rural areas," Fourth joint Japan-North America mathematical sociology conference, Redondo Beach, California, May 29th, 2008

稲垣佑典、「地域比較による信頼生成過程の変化についての検討」日本社会心理学会（かごしま県民交流センター）、2008年11月3日

Inagaki, Yusuke, "Relationship Between Trust and Commitment: A Study of Trust Generating Processes in Japanese Urban and Rural Areas" The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul, March 12th 2009

Inagaki, Yusuke, "Characteristics and Potential of Social Capital: Possible Use of Social Capital in Japanese Local Revitalization" Tohoku-Stanford Summer School 2009, Tohoku University, Japan, 17th July 2009

稲垣佑典、「中心市街地活性化協議会のネットワークが地域活性化対策に及ぼす影響」、日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会合同大会（大阪大学）、2009年10月11日

Inagaki, Yusuke, “ Relationship Between Trust and Commitment: Trust Generating Processes in Japanese Urban and Rural Areas ” 『東北大学大学院文学研究科グローバル COE 主催「若手研究者のための Lind セミナ」』、仙台（東北大学）、2009 年 11 月 13 日。

Inagaki, Yusuke, “Job Changes and Social Networks: The Difference between Voluntary and Involuntary Job Changers”, The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia, Sendai (Excel Hotel Tokyu), March 14, 2010.

Inagaki, Yusuke and Yusuke Hayashi, “Reexamination of Social Networks on Job Changes: the Case of Japanese Labor Market,” SunBelt XXX, Trento, Italy (Riva del Garda Fierecongressi), July 2, 2010.

Inagaki, Yusuke. June, 2011 “Analysis of Job Change and Social Stratification: A Social Network Approach.” The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, January 29-30, 2011.

[ 恵羅さとみ ] ( 2009.4 ~ 2010.3 )

Era, Satomi, "Mobility and Labor Movement: An Analysis on Traditional Trade Unions Facing New Agendas," The 9th conference of Asia-Pacific Sociological Association (APSA) at the Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, Indonesia, 14th June 2009.

恵羅さとみ、「アメリカ労働運動とローカリティ・移動・世代経験」東北社会学会研究例会（東北大学）、2009 年 7 月 4 日

[ 大林真也 ] ( 2010.4 ~ )

大林真也・金澤悠介、「コミュニティ・ユニオンにおける集合行為のメカニズム フィールドワークと数理モデルによるアプローチ」数理社会学会（沖縄国際大学）、2011 年 3 月 8 日

[ 金澤悠介 ]

金澤悠介、「信頼と信頼性の関連について コミットメント関係の関係から」数理社会学会大会（九州大学）、2007 年 3 月 3 日

金澤悠介、「異質な他者との付き合いは個人の信頼を上昇させるのか？ 社会関係資本と信頼の関係に関する一考察」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007 年 7 月 21 日

- 針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォー  
マライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会  
(広島修道大学)、2007年9月15日
- 金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本  
に関する地域比較 社会調査データによる検討」数理社会学会大会  
(広島修道大学)、2007年9月15日
- 針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進  
化 エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社  
会心理学会大会(早稲田大学)、2007年9月22日
- 朝岡誠・金澤悠介、「コミットメント関係と信頼生成のメカニズム」第  
45回数理社会学会(成蹊大学)、2008年3月16日
- 金澤悠介、「社会的ネットワークと信頼 3つの仮説の経験的検討」数理  
社会学会(成蹊大学)、2008年3月16日
- Kanazawa, Yusuke, “Which form of social networks fosters people’s trust? :  
A test of two hypotheses on the relationship between social networks and  
trust.” International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by  
Young Scholars in Asia, 2008
- Kanazawa, Yusuke and Makoto Asaoka, “When do high trusters leave their  
commitment relations?: An exploration through an agent-based model.”  
Forth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology in Redondo  
Beach, 1st June, 2008
- Kanazawa, Yusuke, “Why social networks breed people’s sense of trust?: An  
empirical test of three hypotheses.” 日本社会学会大会(東北大学)、2008  
年11月23日
- 倉元直樹・金澤悠介、「大学入学者選抜における調査書利用の考え方 『合  
否入替り』法を利用して」日本高等教育学会(長崎大学)、2009年5  
月23日
- 金澤悠介、「組織加入と信頼の生成—社会調査による検討」東北社会学会  
大会(東北学院大学)、2009年7月20日
- 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護師は理系? 文系?  
—大学入試設計から考える看護師養成の問題」日本テスト学会(名古  
屋大学)、2009年9月3日



倉元直樹・金澤悠介、「大学入試における『評価尺度の多元化』に則った調査書利用法に関わる一考察」日本テスト学会（名古屋大学）、2009年9月4日

内海裕太・林雅秀・金澤悠介・吉良洋輔・海野道郎、「社会的ジレンマの観点から見た入会地の管理 宮城県白石市小原地区の複数村入会の事例分析」第49回数理社会学会大会、2010年

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系の入試構造に見る高大接続問題」平成22年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会（第5回）大会、2010年

金澤悠介・片山琴絵・廣瀬毅士・山口和範、「e-Learningによる統計教育の実践と統計教育の質保証」第38回行動計量学会、2010年

[ 川嶋伸佳 ] (2011.4 ~ )

川嶋伸佳 「ミクロ公正感の要因：社会的経済的地位と不公正への敏感さの効果」法と心理学会第11回大会（立命館大学）、2010年10月17日

Kawashima, N, "Social Inequalities and Psychological Well-being in Japan: The Effects of Micro and Macro Fairness," *Verbal presentation at the International Symposium "Social Inequality and Justification of It,"* Tokyo, December 18<sup>th</sup>, 2010.

Kawashima, N. & Ohbuchi, K, "Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being." *Poster presentation at The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology*, San Antonio, January 28<sup>th</sup>, 2011.

川嶋伸佳 「社会経済的地位に対する認知とミクロ公正感」若手研究者のための公正研究ワークショップ（東北大学）、2011年3月1日

川嶋伸佳・大淵憲一 「階層帰属意識とミクロ公正感」日本社会心理学会第52回大会（名古屋大学）、2011年9月18日

川嶋伸佳 「社会的不平等とミクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」日本社会心理学会第52回大会ワークショップ（名古屋大学）「『関係性』に注目した公正概念の検討—手続きなのか人間関係なのか—」2011年9月19日

[ 吉良洋輔 ] (2009.4 ~ )

吉良洋輔・河村和徳、「市町村合併のゲーム論的分析」公共選択学会（慶応義塾大学）、2010年6月27日

吉良洋輔、「無限繰り返しゲームによるコモンズ・ジレンマの分析 利他的懲罰による均衡維持メカニズムの定式化」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011年3月8日

[ 佐藤智子 ] (2006.4 ~ 2009.3)

佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流に関する実証的研究 継続的交流を可能ならしめる要因」日本国際政治学会(福岡国際会議場)、2007年10月28日

[ 塩谷芳也 ] (2005.4 ~ )

塩谷芳也、「職業的地位認知と階層の再生産」数理社会学会大会（九州大学）、2007年3月3日

塩谷芳也、「職業威信研究の課題と展望」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007年7月21日

朝岡誠・塩谷芳也、「人種集団とアスピレーション 相互作用とアスピレーションのエージェントベーストモデル」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

Shiotani, Yoshiya, " Perception of Occupational Status and Orientation of Status Attainment " , International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia, in Sendai Excel Hotel Tokyu, January 26, 2008.

塩谷芳也、「職業威信構造の認知と達成的地位志向 達成的地位志向に影響を及ぼす新変数の発見」数理社会学会大会（成蹊大学）2008年3月17日

Shiotani, Yoshiya, "Perception of Occupational Status and Orientation of Status Attainment," Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, in Redondo Beach, California, May 30, 2008.

Shiotani, Yoshiya, "Cognition of Social Conditions and Status Attainment Orientation," 81th Annual Meeting of The Japan Sociological Society(日本社会学会大会) , at Tohoku University, November 23, 2008.

Shiotani, Yoshiya and Yoshimichi Sato, "Why Does Difference in Aspiration Exist among Individuals, Explanation in Terms of Social Images,"

Inequalities and Disparities in East Asia: A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology and Stratification Studies, at National University of Singapore, February 19, 2009.

Shiotani, Yoshiya and Yoshimichi Sato, “Social Image and Aspiration to Get Higher Social Status,” International Symposium on Social Justice, Social Stratification, and Intergroup Conflict, at Sendai International Center, February 24, 2009.

Shiotani, Yoshiya and Yoshimichi Sato, “Perception of Social Stratification and Status Orientation” The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Korea, March 13, 2009.

Shiotani, Yoshiya, “Distributive Image of Social Stratification and Status Orientation,” The 9th Conference of the Asian Pacific Sociological Association, at Kartika Plaza Hotel, Kuta, Bali, Indonesia, on June 13, 2009.

Shiotani, Yoshiya, “Perception of Social Stratification and Status Orientation,” Tohoku and Stanford University Summer School 2009, at Tohoku University, on July 13, 2009.

Shiotani, Yoshiya, “Sexual Behavior and Self-Esteem among Japanese Youth,” Mini-conference on Building Asian Sociology: Prospect and Strategies、仙台、東北大学、2010年1月23日

塩谷芳也、「青少年の性行動とセルフエスティーム」、社会階層と健康格差—社会科学と健康科学の融合 仙台研究交流集会 2010 文部科学省科学研究費（新学術領域提案型）「社会階層と健康」A06 領域「社会保障・労働政策の分析」班による公開研究会、仙台、東北学院大学、2010年2月26日

Shiotani, Yoshiya, “Does the Self-Esteem Encourage Sexual Behavior or Not? Case of Japanese Youngster,” The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia、仙台、エクスセルホテル東急、2010年3月14日

[ 鈴木伸生 ] ( 2009.4 ~ )

鈴木伸生、「大卒就職においてOB利用の効果は衰退したのか OBの機

能に着目して」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011年3月8日  
鈴木伸生「大卒就職におけるOB利用の規定要因」日本社会学会大会（関西大学）、2011年9月17日

[ Chihaya da Silva、Guilherme Kenjy ]（2009.4～）

Chihaya da Silva、Guilherme Kenjy、「中国における職業的地位の測度 通婚圏から見える職業の序列」東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月19日

Chihaya da Silva、Guilherme Kenjy、「改革開放後中国における社会的地位 職業集団の通婚圏の分析から」日本社会学会大会（立教大学）、2009年10月11日

Chihaya da Silva、Guilherme Kenjy、「Partner Introduction and Homogeneity in China: Does Who Introduces Matters?」ISA 国際社会学会大会 ヨーテボリ、ヨーテボリ大学ハンデルスビジネススクール 2010年7月14日

Chihaya da Silva、Guilherme Kenjy、「Market Transition and the Social Space of Interactions in China: Changes in the Status Positions of Occupations after the Reforms」ISA 国際社会学会大会 ヨーテボリ、ヨーテボリ大学ハンデルスビジネススクール 2010年7月16日

Chihaya, Guilherme Kenji, "Who Marries Whom in China" The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, Tohoku University, January 30th, 2011.

[ 針原素子 ]（2005.4～2011.3）

金井雅之・籠谷和弘・小林盾・武藤正義・針原素子・渡邊勉・秋吉美都・辻竜平・高久聡司・三隅一人、「宿泊施設の経営環境と業績との関係についての統計的分析 温泉地域の現状と取り組みについての学術調査(1)」日本温泉地域学会大会（蔵王温泉）、2007年7月

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォーマライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本に関する地域比較 社会調査データによる検討」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進

化 エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日

辻竜平・針原素子、「震災にともなう一般的信頼とネットワークの変化  
新潟県中越地震におけるパネル調査より」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月23日

Harihara, Motoko and Chang, S., "The effect of social networks on modest self-presentation: Comparative study in Japan and Korea" Poster session presented at the 19th Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology, (Abstract 470), Bremen, Germany, 2008, July 30

針原素子、「社会的ネットワーク構造が“集団主義的”特性に及ぼす影響」日本社会心理学会第49回大会（鹿児島大学）、2008年11月2-3日

針原素子・小林哲郎・高木大資、「寛容性と私生活志向が社会関係資本に及ぼす効果：無関心の表れとしての寛容性に注目して」日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回合同大会（大阪大学）、2009年10月11日

小林哲郎・針原素子・高木大資、「評判の共有と利用における携帯メール利用の効果：地域間比較の視点から」日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回合同大会（大阪大学）、2009年10月12日

高木大資・小林哲郎・針原素子・池田謙一、「犯罪は地域コミュニティに何を引き起こすのか？社会関係資本論からの検討」日本社会心理学会第50回大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回合同大会（大阪大学）、2009年10月12日

Harihara, Motoko, "Cultural differences in social capital: Comparative study in Japan and Korea," Cultural Psychology Pre-Conference at the Society for Personality and Social Psychology Annual Meeting, 2010, January 28th, Las Vegas, USA

Harihara, Motoko, "Location of social networks and political participation: Comparative study in Japan and Korea," 30th Sunbelt Social Network Conference, 2010, July, 1st, Riva del Garda, Italy

[ 林雅秀 ] ( 2007.4 ~ )

- 林雅秀・天野智将、「ネットワークの視点から見た素材生産業者の行動」  
日本森林学会大会（九州大学）、2007年4月3日
- 林雅秀・天野智将、「ネットワークが素材生産業者のパフォーマンスに与える影響」日本社会学会大会（関東学院大学）、2007年11月17日
- 天野智将・林雅秀・堀靖人、「大規模木材需要の発生と素材生産業の対応」  
林業経済学会秋季大会（島根大学）、2007年11月25日
- 田中亘・山本伸幸・林雅秀、「林業経営統計調査からみた主業的林業経営の動向」日本森林学会関西支部大会（高知大学）、2008年10月17-18日
- 林雅秀・山本伸幸「林業経営統計調査から見た世帯、支出、および所得」  
林業経済学会秋季大会（岩手大学）、2008年11月15日
- 高橋正也・比屋根哲・林雅秀「社会ネットワーク分析による農村集落住民ネットワークの把握」林業経済学会秋季大会（岩手大学）、2008年11月16日
- 林雅秀・岡裕泰・田中亘・久保山裕史「森林所有者の意思決定と社会関係」  
日本森林学会大会（京都大学）、2009年3月26日
- 山本伸幸・林雅秀・田中亘「2005年農林業センサス「農林業経営体」概念の予備的検討」日本森林学会大会（京都大学）、2009年3月26日
- 岡裕泰・林雅秀・田中亘・久保山裕史「森林所有者の主伐 - 更新意思決定と地域における長期的木材供給」日本森林学会大会（京都大学）、2009年3月27日
- Hayashi, Masahide and Tomomasa Amano, "Effects of Networks Composed of Loggers and Forest Owners on Forest Management," International Symposium on Society and Resource Management hosted by The University of Natural Resources and Applied Life Sciences in Vienna, July 8th 2009.
- 内海裕太・林雅秀・金澤悠介・吉良洋輔・海野道郎、「社会的ジレンマの観点から見た入会地の管理」、数理社会学会（立命館大学）、2010年3月7日
- [ 林雄亮 ]（2005.4～2011.3）
- 林雄亮、「現代日本社会における地位の非一貫性問題 2005年SSM調査の分析」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007年7月
- 金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本

- に関する地域比較 社会調査データによる検討」数理社会学会大会(広島修道大学)、2007年9月15日
- 林雄亮、「現代における社会的地位の一貫性問題」日本社会学会大会(関東学院大学)、2007年11月18日
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market and Social Disparity in Japan: Focusing on Intra-generational Mobility using SSM2005 data," Inequalities and Disparities in East Asia: A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Stratification Studies at National University of Singapore, Singapore, 19 February 2009.
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market in Postwar Japan," The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Yonsei University, Seoul, 13 March 2009.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," ISA-RC28 2009 Spring Meeting at Renmin University, Beijing, 14 May 2009.
- Hayashi, Yusuke and Yoshimichi Sato, "Fluidization of the Labor Market and Disparity in Postwar Japan," The 9th Conference of Asia-Pacific Sociological Association at Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, 14 June 2009.
- 林雄亮、「ワーキングプア層の変化と移動メカニズム」東北社会学会大会(東北学院大学)、2009年7月20日
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market in Contemporary Japan: Introduction of the SSM data and Some Empirical Results," International Convention of Asia Scholars 6 at Daejoen Convention Center, Daejoen, 6 August 2009.
- Hayashi, Yusuke, "Structural Change and Inequality in the Japanese Labor Market," The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Sendai Excel Hotel Tokyu, Sendai, 13 March 2010.
- Inagaki, Yusuke and Yusuke Hayashi, "Reexamination of Social Networks on Job Changes: the Case of Japanese Labor Market," International Network

for Social network Analysis Sunbelt XXX at Riva del Garda Fiere Congressi Riva del Garda, Trento, 2 July 2010.

Hayashi, Yusuke, "Job Mobility after the Economic Transformation: Cross-national Comparison of Japan and Korea," International Sociological Association World Congress Research Committee 28-07 at University of Gothenburg, Gothenburg, 13 July 2010.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," Annual Meeting of American Sociological Association at Hilton Atlanta, Atlanta, 14 August 2010.

Imai, Jun and Yusuke Hayashi, "Employment deregulation and increasing fragmentation of workers' career in Japan"UC Riverside-Tohoku Joint Symposium at Tohoku University, Sendai, Japan 19th November 2010.

Imai, Jun and Yusuke Hayashi, "Making of a sphere of risky mobility: the new segmentation of labor market in Japan"German Institute for Japanese Studies Expert workshop: New employment risks in East Asia at DIJ Tokyo, Tokyo, Japan, 26th November 2010.

Hayashi, Yusuke, "Changes in Japanese Adolescents 2: Sexual behavior and Communication," The 10th Conference of Asia-Pacific Sociological Association at Hyatt Regency Kinaablu Hotel, KotaKinabalu, Malaysia 9th December 2010.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan" The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Westin Sendai, Sendai, 29th January 2011.

[ 古里由香里 ] ( 2011.4 ~ )

古里由香里、「介護職の専門職化と職場環境に関わる問題の構造」数理社会学会大会(信州大学)、2011年9月6日

[ 余田翔平 ] ( 2008.4 ~ )

余田翔平、「父不在高校生の教育アスピレーション」東北社会学会(東北学院大学)、2009年7月20日

余田翔平、「家族構造と地位達成 - 早期父不在者のライフコースに関する計



量的研究 - 」, 家族問題研究学会, 東京, 早稲田大学, 2010 年 4 月 24 日

余田翔平、「父不在層のライフコース - - SSM データを用いた時系列分析」  
第 20 回家族社会学会大会 (成城大学)、2010 年 9 月 11 日

余田翔平、「ひとり親家族と教育達成過程 - - 家族構造とジェンダーによる不平等の形成」 第 83 回日本社会学会大会 (名古屋大学)、2010 年 11 月 6 日

Shohei, Yoda, "Changes in Japanese Adolescents 1: School, Gender and Family." The 10th Conference of Asia Pacific Sociological Association, Hyatt Regency Kinabalu, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, December 8-11, 2010.

余田翔平、「子ども期の家族構造と教育達成格差 - - 二人親世帯 / 母子世帯 / 父子世帯の比較」 第 21 回家族社会学会大会 (甲南大学)、2011 年 9 月 11 日

林雄亮・余田翔平、「日本女性の M 字型就業パターンの再検討 - - 2005 年 SSM 調査による潜在クラス分析」 第 84 日本社会学会大会 (関西大学)、2011 年 9 月 17 日

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

神林啓人、平成 20 年度 東北大学総長賞 (卒業論文)

「学歴再生産メカニズムの分析 学歴下降回避説の検討」、2009 年 3 月

稲垣佑典、平成 22 年度 日本社会心理学会優秀論文賞、2010 年 9 月

安達智史、平成 22 年度 日本社会学会奨励賞 (論文の部)、2010 年 11 月

安達智史、平成 23 年度 関西社会学会大会奨励賞、2011 年 5 月

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2007 年度 な し

2008 年度 な し

2009 年度 DC2 採用 1 名、PD 受け入れ 1 人、RPD 受け入れ 1 人

2010 年度 DC2 採用 1 名、PD 受け入れ 1 人

2011 年度 DC1 採用 1 名、DC2 採用 2 名

## 5 留学・留学生受け入れ

### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2007年度

学部（研究生）1名、大学院 3名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシア）、大連外国語学院大学

2008年度

学部（研究生、特別聴講学生）2名、大学院 3名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシア）、大連外国語学院大学、上海外国語大学、西江大学校（大韓民国、東北大学直接配置交換留学プログラムによる）

2009年度

学部（特別聴講学生）1名、大学院 4名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシア）、大連外国語学院大学、上海外国語大学、西江大学校（大韓民国、東北大学直接配置交換留学プログラムによる）

2010年度

学部（特別聴講学生）1名、大学院 4名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、大連外国語学院大学、上海外国語大学、Stockholm 大学（スウェーデン、東北大学直接配置交換留学プログラムによる）

2011年度

学部（研究生、特別聴講学生）3名、大学院 3名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、大連外国語学院大学、西北大学現大学院、上海師範大学、泉州師範学院

### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
07	0 (1)	3	3 (1)
08	1 (1)	3	4 (1)
09	1 (0)	4	5 (0)
10	1 (0)	4	5 (0)

11	0 (3)	3	3 (3)
計	3(5)	17	20(5)

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	2	2	4
08	1	2	3
09	0	0	0
10	1	0	1
11	0	1	1
計	4	5	9

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

本郷正武、和歌山県立医科大学医学部、2010年度  
 林雄亮、立教大学社会学部、2011年度  
 針原素子、東京女子大学現代教養学部、2011年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 1名、  
 通訳 0名、  
 ジャーナリスト 1名、  
 出版社社員 0名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

2008年度 Kim Jikyung (大韓民国、私費)

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2007年度 David Grusky 客員教授  
 2008年度 Paul A. Kowert フルブライト招聘講師  
 2009年度 Mary Brington 客員教授  
 2010年度 Hyunjoon Park 客員准教授  
 2011年度 なし

## 1 0 刊行物（専攻分野刊行のもの）

本研究室では、全国学会、もしくは海外での研究成果の報告を奨励していることから、研究室独自の定期刊行物の刊行はおこなっていない。（なお、研究室構成員は、これまで、日本社会学会、数理社会学会、行動計量学会の機関誌編集委員長となり、内外の他学会機関紙の編集委員担当も含め、学術情報の発信には積極的に貢献している。）

## 1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

### 2007 年度

2005 年社会階層と社会移動調査研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

### 2008 年度

第 81 回日本社会学会大会実行委員会（委員長：原 純輔、幹事：佐藤  
嘉倫、事務局長：本郷正武）

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

### 2009 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

数理社会学会研究事務局

### 2010 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

数理社会学会研究事務局

### 2011 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

移動レジーム研究会事務局

数理社会学会編集事務局

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

#### 2007年度

東北大学教育文化研究会 「教育と社会に対する高校生の意識」第6  
次調査(2007年10~12月)

#### 2009年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」  
第1回調査(2010年3~4月)

#### 2010年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第  
2回調査(2010年9~11月)

### **1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価**

21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」がスタートした2003年ごろを境に、本研究室の研究体制は大きく変容し、研究成果は質量ともに向上した。まず、海外からの客員教授や、日本学術振興会特別研究員、留学生、研究生などを受け入れることで、異なる学問分野との知的交流がより促進された。このことは、日本国内はもとより、世界に通じる研究を発信することにも寄与している。加えて、2005年度前後には、大規模な調査研究プロジェクトが本研究室を事務局に進行し、その準備等に大きな人員と労力を割いてきた。これらの機会を得て、多くの大学院生が自身の研究を展開させ、多くの研究成果を生み出した。現在、これらの調査結果の分析に取り組んでいるが、現時点で博士課程(後期)に在籍する大学院生の絶対数は十分であるとは言い難い。今後は、研究室を挙げて能力の高い院生の募集と育成に傾注する必要がある。博士学位授与件数は、2008年度に3件、2009年度に1件、2011年度に1件出しており、健闘していると考えている。今後は、後期3年で博士学位論文を提出する数を増やせるよう、指導をおこなっていきたい。

2008年度からは、グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」が採択された。行動科学研究室では、佐藤嘉倫教授がこの拠点リーダーであり、他の教授・准教授も全員、事業推進担当者としてこのプログラムに関わっている。このグローバル COE プログラムを通じて、行動科学専攻分野の大学院生の教育に力を入れていきたい。

学部生の教育については、これまでも社会調査をおこなうためのトレーニン

グを体系的に組んできた。そこで得られた専門性は、調査会社や行政などで十二分に活かされていると自負している。2004年度からは、「社会調査士資格」の認定カリキュラムの実施により、さらに多くの学生が社会調査を通じて教育の成果を社会に還元してくれることを願っている。なお、社会調査士資格認定機構（現在は一般社団法人社会調査協会となっている）の設立に際し、原純輔はカリキュラムの作成など初期からかかわり、現在も理事として尽力している。また、木村邦博は2009年9月から2011年3月まで、社会調査協会の機関誌『社会と調査』の専門査読委員を依頼された。

学会活動では、学会の開催事務局を引き受けてはいないものの、教員および大学院生とも積極的に学会運営および報告に寄与している。数理社会学会、および行動計量学会では、ほぼ毎年登壇しており、活発な議論を展開している。今後は、上記の研究プロジェクトに関する数多くの報告、特に国際学会での報告を期待している。

学会役員としても、大きく貢献してきた。数理社会学会では、浜田宏が理事をつとめている（2009年度～）。（なお、数理社会学会に関しては、原純輔、海野道郎、佐藤嘉倫がともに会長経験者である。）東北社会学会では2003年7月～2005年7月は原純輔が、その後2007年7月までは海野道郎が、学会長として学会運営の先頭に立って活動した。日本社会学会においても、佐藤嘉倫が世界社会学会議組織委員（2008年度～）および国際化戦略特別委員（2009年度～）として学会の国際化活動を支えている。また2006年度からは2009年度まで海野道郎が、2010年度から現在までは原純輔が財務理事として、日本社会学会の財務運営を担当している。また佐藤嘉倫は、国際社会学会理事（2006年度～現在）および合理的選択部会会長（2006年度～2010年度）、同部会理事（2010年度～）として国際社会学会に貢献するとともに、アメリカ社会学会「合理性と社会」部会長（2011年度～）としてアメリカ社会学会にも貢献している。木村邦博は、日本行動計量学会理事（2006年度～2008年度）および日本教育社会学会編集委員会委員（2007年10月～2011年9月）をつとめたほか、現在は日本行動計量学会欧文機関誌編集委員会委員（2009年度～）もつとめている。

グローバル COE プログラムをはじめ、多くの大規模な研究プロジェクトが本研究室を中心に進行する一方で、事務局機能が肥大化しているのも事実である。幸い、近隣の他大学の教員や、本研究室を修了した研究者が積極的にプロジェ

クトを担っており、同時並行で研究が進んでいる。今後も他大学との連携を図り、事務局体制をより一層強化することが求められよう。

## 教員の研究活動（2007～2011年度）

### 1 教員による論文発表等

#### 1-1 論文

[海野道郎]（～2008.3）

海野道郎「誰が社会的ジレンマ状況を定義するのか？ 社会的ジレンマ状況の定義と人々の行動」『社会学研究』80号、7-28頁、2006〔小改訂の上、海野道郎編『廃棄物をめぐる人間行動と制度 環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助金 研究成果報告書）、245-262頁、2007、に再録〕。

UMINO, Michio, “A sense of unfairness as strata consciousness in Contemporary Japan,” pp.34-54 in *Social Justice in Japan: Concepts, Theories and Paradigms*, edited by Ken’ichi Ohbuchi, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007

海野道郎「オーストラリアにおける環境問題 南オーストラリア州の廃棄物問題を中心として」船橋晴俊・平岡義和・平林祐子・藤川賢（編）。『日本及びアジア・太平洋地域における環境問題と環境問題の理論と調査史の総合的研究』（2003-2006年度科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表＝帆足養右、課題番号 1533011）、2007

海野道郎「経験科学の対象としての社会的ジレンマ 合理的選択理論に基づく方法論的検討」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度 環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助金 研究成果報告書）、105-118頁、2007

海野道郎「社会的ジレンマ状況を捉える経験的枠組み」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度 環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助金 研究成果報告書）、263-276頁、2007

海野道郎・篠木幹子・工藤匠「社会調査における実査体制と回収率 Gomi調査の経験から」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度 環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助

- 金 研究成果報告書)、227-235 頁、2007
- [ 原 純輔 ] ( ~ 2009.3 )
- Hara, Junsuke, “Contemporary Japanese Society and the New Inequalities: A Frontier of Social Stratification and Inequality Research,” pp.3-17 in *Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond*, edited by Yoshimichi Sato, Trans Pacific Press, 2007,
- 原 純輔「社会調査活動を支えるもの」『先端社会研究』6号、235-249 頁、関西学院大学出版会、2007
- 原 純輔「『青少年の性行動全国調査』とその30年」日本性教育協会(編)『「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告』、7-21 頁、小学館、2007
- [ 佐藤嘉倫 ]
- 佐藤嘉倫・吉田崇「貧困の世代間連鎖の実証的研究 所得移動の観点から」『日本労働研究雑誌』、第563号、75-83 頁、2007
- 佐藤嘉倫「格差社会論と社会階層論 格差社会論からの挑戦に就いて」『季刊経済理論』、第44巻第4号、20-28 頁、2008
- Sato, Yoshimichi, and Shin Arita. “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” *Social Subsumption and Exclusion in East Asia*, Yonsei University Press, 2008. (Yoshimichi Sato and Shin Arita 共著 韓国語)
- Sato, Yoshimichi, “Formation of Career Aspirations under Structural Constraints: A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” 阿形健司(編), 『働き方とキャリア形成』(2005SSM 調査シリーズ4)、2005年SSM 調査研究会、143-158 頁、2008
- Sato, Yoshimichi, “Disparity Society Theory and Social Stratification Theory: An Attempt to Respond to Challenges by Disparity Society Theory,” 佐藤嘉倫(編)『流動性と格差の階層論』(2005SSM 調査シリーズ15)、2005年SSM 調査研究会、1-20 頁、2008
- David B. Grusky, Yoshimichi Sato, Jan O. Jonsson, Satoshi Miwa, Matthew Di Carlo, Reinhard Pollak, and Mary C. Brinton, “Social Mobility in Japan: A New Approach to Modeling Trend in Mobility,” 渡邊勉(編)『世代間移動と世代内移動』(2005SSM 調査シリーズ3)、2005年SSM 調査研究



会、1-25 頁、2008

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” 有田伸（編）『東アジアの階層ダイナミクス』（2005SSM 調査シリーズ 13）、2005 年 SSM 調査研究会、43-54、2008

佐藤嘉倫「結果の不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、29-50 頁、2008

佐藤嘉倫「機会の不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、51-69 頁、2008

佐藤嘉倫「不平等の国際比較」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、70-85 頁、2008

佐藤嘉倫「韓国社会の両極化と流動性」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、119-136 頁、2008

佐藤嘉倫「エスニシティと階層・不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送大学教育振興会、192-208 頁、2008

佐藤嘉倫「社会関係資本の光と影」、土場学・篠木幹子（編著）、『個人と社会の相克 社会的ジレンマ・アプローチの可能性』、京都：ミネルヴァ書房、157-173 頁、2008

佐藤嘉倫「分野別研究動向（階級・階層） 研究の展開とフロンティアの拡張」、『社会学評論』、日本社会学会、第 59 巻第 2 号、388-404 頁、2008

Sato, Yoshimichi, and Takashi Yoshida, “An Empirical Study of Intergenerational Transmission of Poverty from the Perspective of Income Mobility,” *Japan Labor Review*, Vol. 5, No. 4, 95-102, 2008

佐藤嘉倫「社会変動のミクロ - マクロ理論」、金子勇・長谷川公一（編）、『講座・社会変動 第 1 巻 社会変動と社会学』、51-76 頁、京都：ミネルヴァ書房、2008

佐藤嘉倫「現代日本の階層構造の流動性と格差」、『社会学評論』、第 59 巻第 4 号、632-647 頁、2009

佐藤嘉倫・有田伸「全球化、地方制度与日本中産階級」、李春玲（編）、

- 『比較視野下的中産階級形成』、北京：社会科学文献出版社、2009（中国語）
- Sato, Yoshimichi, “Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo,” *Journal of Contemporary Society and Culture*, Vol. 28, 37-48 (Korean), 181-192 (English), 2009
- Sato, Yoshimichi, “Are Asian Sociologies Possible?: Universalism versus Particularism,” Michael Burawoy, Mau-kuei Chang, and Michelle Fei-yu Hsieh (eds.), *Facing An Unequal World: Challenges for A Global Sociology vol. 2: Asia*, Institute of Sociology, Academia Sinica and Council of National Associations of International Sociological Association, 192-200, 2010
- Sato, Yoshimichi, “Stability and Increasing Fluidity in the Contemporary Japanese Social Stratification System,” *Contemporary Japan*, 22-1&2: 7–21, 2010
- Sato, Yoshimichi, “A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?” Hyun-Chin Lim, Wolf Schafer, and Suk-Man Hwang (eds.), *New Asias: Global Futures of World Regions*, 209-225, Seoul: Seoul National University Press, 209-225, 2010
- Imai, Jun and Yoshimichi Sato, “Regular and Non-Regular Employment as an Additional Duality in Japanese Labor Market: Institutional Perspectives on Career Mobility,” Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2011
- Sato, Yoshimichi, “Institutions and Inequality in the Status Attainment Process :A Theoretical Note,” 佐藤嘉倫（編），『現代日本の階層状況の解明 ミクロ - マクロ連結からのアプローチ 第1巻 社会階層・社会移動』，科学研究費補助金研究成果報告書，1-13, 2011
- 林雄亮・佐藤嘉倫，「流動化する労働市場と職業キャリアの格差」，盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲（編）『日本の社会階層とそのメカニズム 不平等を問い直す』，東京：白桃書房，2011
- 佐藤嘉倫・林雄亮，「現代日本の格差の諸相 転職とワーキングプアの問題を中心にして」，佐藤嘉倫・尾嶋史章（編）『現代の階層社会

- 1 『格差と多様性』, 東京: 東京大学出版会, 2011
- Sato, Yoshimichi, “Does Mathematical Sociology Contribute to the Progress of Sociology?” 『理論と方法』, 印刷中
- [ 木村邦博 ]
- Kimura, Kunihiro, and Mikiko Shinoki, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling. I. A Two-Stage Model of Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction,” 『理論と方法』 第 22 巻第 1 号、31-48 頁、数理社会学会、2007
- Shinoki, Mikiko, and Kunihiro Kimura, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling. II. Empirical Tests of Predictions from the Model,” 『理論と方法』 第 22 巻第 1 号、49-69 頁、数理社会学会、2007
- Kimura, Kunihiro, “Education, Employment and Gender Ideology,” pp.84-109 in *Gender and Career in Japan*, edited by Atsuko Suzuki, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007
- 木村邦博「環境汚染問題の 3 つのモデル 社会的ジレンマと集団規模」土場学・篠木幹子（編著）『個人と社会の相克 社会的ジレンマ・アプローチの可能性』、53-75 頁、ミネルヴァ書房、2008
- 木村邦博「序章 調査の企画と実施」木村邦博（編）『教育と社会に対する高校生の意識 第 6 次調査報告書』、1-14 頁、東北大学教育文化研究会、2009
- 木村邦博「高校生の規範意識の現状 コールバーグの道徳性発達理論にもとづく検討」木村邦博（編）『教育と社会に対する高校生の意識 第 6 次調査報告書』、103-120 頁、東北大学教育文化研究会、2009 年
- 木村邦博「『問い』を主題とした学説研究の重要性 科学としての社会学と歴史学としての社会学史の発展のために」（特集 学説研究と数理・計量社会学）『社会学年報』、No.38、31-41 頁、東北社会学会、2009
- Kimura, Kunihiro, “Sex-Based Discrimination Trends in Japan, 1965-2005: The Gender Wage Gap and the Marriage Bar,” pp.156-171 in *Discrimination in an Unequal World*, edited by Miguel Centeno and Katherine S. Newman. New York: Oxford University Press. 2010
- Kimura, Kunihiro, “Gender-Based Discrimination, Inequality, and Marriage.” Pp.

1-13 in *Minorities and Diversity*, edited by Kunihiro Kimura. Melbourne: Trans Pacific Press. 2010

[ 浜田 宏 ]

浜田宏「進学率と世代間移動の数理モデル」『社会学評論』、第 58 巻第 4 号、608-624 頁、2008

浜田宏・石田淳「個人収入の適正感と満足度」、土場学（編）『公共性と格差』、2005 年 SSM 調査研究会.科学研費補助金特別研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」成果報告書（2005 年 SSM 調査シリーズ 7）、45-56 頁、2008

浜田宏「進学と世代間移動の合理的選択モデル MMI 仮説の定式化」、渡邊勉（編）『世代間移動と世代内移動』2005 年 SSM 調査研究会.科学研費補助金特別研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」成果報告書（2005 年 SSM 調査シリーズ 3）、111-128 頁、2008

浜田宏「幸福の測り方」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、66-77 頁、放送大学出版協会、2008

浜田宏「幸福感の現状」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、78-88 頁、放送大学出版協会、2008

浜田宏「幸福な社会のデザイン」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、89-99 頁、放送大学出版協会、2008

浜田宏「相対リスク回避モデルの再検討 Breen and Goldthorpe モデルの一般化」『理論と方法』第 24 巻第 1 号、数理社会学会、57-76 頁、2009

浜田宏「N 人ジレンマの提携形ゲーム」『理論と方法』第 24 巻第 2 号、317-332 頁、数理社会学会、2009

Atsushi Ishida, Hiroshi Hamada, Kenji Kosaka. "Simulation Analysis of the Effects of the Global Redistribution of Wealth on Subjective Well-being in the World." *Kwansei Gakuin University Social Sciences Review*. Vol. 14: 1-20. 2009

浜田宏「差別をめぐる相互行為のダイナミクス - - 演繹的研究のコアとしての数理モデル」『フォーラム現代社会学』第 9 号、42-51 頁、2010

浜田宏・七條達弘「異質な集団における相対的剥奪モデル」『理論と方法』第25巻第1号、107-123頁、2010

Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Trans Pacific Press. 2011

浜田宏・石田淳「望ましい収入はどう決まるか？収入アスピレーション・レベルの最適化モデル」齊藤友里子・三隅一人（編）『現代の階層社会3 - 流動化のなかの社会意識』東京大学出版:233-246、2011

[ 永吉希久子 ]

永吉希久子「排外意識に対する接触と脅威認知の効果 JGSS-2003 の分析から」、『日本版 General Social Survey 研究論文集』7号、JGSS 研究所、259-270、2008年

Nagayoshi, Kikuko, "Whose Size Counts?: Multilevel Analysis of Japanese Anti-Immigrant Attitudes Based on JGSS-2006", 『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』9号、JGSS 研究所、157-174、2009

Nagayoshi, Kikuko, "Does Trust Need Commonality?: Effect of National Identity on Change of Trust", 『職業と家族とパーソナリティについての同一パネル長期追跡調査 平成16年～19年度科学研究費補助金研究成果報告書』、大阪大学、197-209、2009

永吉希久子「多文化状況における社会統合に対する信頼感の影響 JGSS-2008 の分析から」、『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』10号、JGSS 研究所、149-162、2010

永吉希久子「呼び戻される「国民」 移民制度の変遷にみられる「統治性」」、『生権力論の現在』檜垣立哉（編）、勁草書房、91-132頁、2011

永吉希久子「シティズンシップ 誰が、なぜ外国人への権利付与に反対するのか?」、『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介（編）、勁草書房、90-116、2011

Nagayoshi, Kikuko, "Cross-National Analysis of the Relationship between National Identity and Social Trust: Liberal Nationalism Reconsidered" 『大阪大学人間科学部紀要』37号、大阪大学人間科学研究科、21-40、2011

Nagayoshi, Kikuko, "Support of Multiculturalism, but for Whom?: Effects of

Ethno-National Identity on the Endorsement of Multiculturalism in Japan”  
*Journal of Ethnic and Migration Studies*, 37(5), Routledge, 561-578, 2011  
宮田直子・永吉希久子、「仕事人間や会社人間だった中高年男性は社会参加  
できるのか」、『パネルデータでみる中高年の意識変容』、吉川徹(編)、  
ミネルヴァ書房、101-117、印刷中

Hjerm, Mikael and Nagayoshi, Kikuko, “The Composition of the Minority  
Population as a Threat: Can Real Economic and Cultural Threats Explain  
Xenophobia?”, *International Sociology*, International Sociological  
Association, forthcoming, 2012

[ 本郷正武 ] ( ~ 2010.3 )

本郷正武・星敦士「スローフード運動における良心的支持者 誰が『食』  
のオルタナティブ運動を担っているのか」『甲南大學紀要 文学編』、  
151号、1-21頁、2008

本郷正武・蘭由岐子・大北全俊・若生治友「いわゆる「集団告知」の多声  
的記述」、好井裕明(編)『被害当事者・家族のライフヒストリーの  
社会学的研究 薬害 HIV 感染被害問題を中心に』(平成17年~19年  
度科学研究費補助金(基盤研究(B)研究成果報告書)、49-65頁、2008

本郷正武「医師 - 患者間の「すれ違い」が招来した問題系—いわゆる「集  
団告知」の多声的記述」『文化』73(1・2)、pp. 19-38、2009

本郷正武「『弔い』としての訴訟運動参加 感染被害者Hp氏の場合」  
山田富秋・種田博之編『「薬害 HIV」問題経験の社会学的研究 ナラ  
ティブ・アプローチから』(平成19年~21年度科学研究費補助金(基  
盤研究(B)研究成果報告書)、pp. 29-43、2010

## 1-2 著書・編著

[ 海野道郎 ] ( ~ 2008.3 )

海野道郎(編著)『廃棄物をめぐる人間行動と制度 環境問題解決の数理・  
計量社会学』、平成15~18年度科学研究費補助金研究成果報告書(基  
盤研究(A)課題番号(15203021))、2007

[ 原 純輔 ] ( ~ 2009.3 )

原 純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一(編)『社会階層と不平等』、放送大学教育  
振興会、2008

原 純輔（編）『リーディングス戦後日本の格差と不平等 2 広がる平等  
神話 1971-1985』、日本図書センター、2008

原 純輔・浅川達人『社会調査』（改訂版）、放送大学教育振興会、2009

[ 佐藤嘉倫 ]

Sato, Yoshimichi (ed.), *Deciphering Stratification and Inequality: Japan and  
Beyond*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007.

佐藤嘉倫（編）『流動性と格差の階層論』（2005SSM 調査シリーズ 15）、  
2005 年 SSM 調査研究会、2008

原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送  
大学教育振興会、2008

佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論 人間と社会の複雑な関係を解く』、  
東京：新曜社、2008

佐藤嘉倫（編）『現代日本の階層状況の解明 ミクロ - マクロ連  
結からのアプローチ』、科学研究費補助金研究成果報告書(全  
3 分冊)、2011

Sato, Yoshimichi and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality:  
Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*,  
Melbourne: Trans Pacific Press, 2011

佐藤嘉倫・尾嶋史章（編）『現代の階層社会 1 格差と多様性』、  
東京：東京大学出版会、2011

[ 木村邦博 ]

木村邦博(編)『教育と社会に対する高校生の意識 第6次調査報告書』、  
東北大学教育文化研究会、2009

Kimura, Kunihiro, ed. *Minorities and Diversity*. Melbourne: Trans Pacific Press.  
2011

[ 浜田宏 ]

浜田宏『格差のメカニズム 数理社会学的アプローチ』、勁草書房、2007

[ 本郷正武 ] ( ~ 2010.3 )

本郷正武『HIV / AIDS をめぐる集合行為の社会学』、ミネルヴァ書房、2007

本郷正武「いわゆる「集団告知」の多声的記述」『医師と患者のライフス  
トーリー—輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究 最終報告書 第  
一分冊 論考編』松籟社、478-501 頁、2009

本郷正武「「薬害 HIV 期」を生きた医師のライフヒストリー—マイノリティ意識に裏打ちされた医師観の形成」『医師と患者のライフストーリー—輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊 論考編』松籟社、145-167 頁、2009

本郷正武「「牽制し合う」意思 - 患者関係」『医師と患者のライフストーリー—輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊 論考編』松籟社、192-218 頁、2009

本郷正武「NPO・ボランティア 「良心的支持者」からなる集合行為」早坂裕子・広井良典・天田城介編『社会学のつばさ』ミネルヴァ書房、pp. 223-236、2010

本郷正武「医療をめぐる社会運動」『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房、印刷中

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

[ 海野道郎 ] ( ~ 2008.3 )

海野道郎、「書評 白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等 少子高齢化社会に潜む格差』東京大学出版会、2006。」『大原社会問題研究所雑誌』第 578 号、49-52 頁、2007

[ 原 純輔 ] ( ~ 2009.3 )

原純輔「書評：吉川徹著『学歴と格差・不平等 成熟する日本型学歴社会』」『日本労働研究雑誌』第 558 号、71-73 頁、労働政策研究・研修機構、2007

[ 佐藤嘉倫 ]

佐藤嘉倫「フリーター問題に寄り添って」『Business Labor Trend』、2008 年 4 月号、40 頁、2008

佐藤嘉倫「社会階層研究の今日から明日へ」『学術の動向』、2008 年 4 月号、70-71 頁、2008

佐藤嘉倫「学問において『わからない』という勇氣」『文学部・文学研究科ブックレット 考えるということ』第 3 巻、2-8 頁、2008

佐藤嘉倫「正規雇用と非正規雇用の比較による労働市場と社会階層との関係を実証的に解明」『科研費 NEWS』、2008 年 Vol.1、3 頁、2008

佐藤嘉倫「社会階層と不平等の問題を多面的に研究—格差問題に一石」『東



- 北大学アニュアルレビュー2008』、6頁、2008
- 佐藤嘉倫「2005年社会階層と社会移動調査の概要」『よろん』、第102号、53-55頁、2008
- 佐藤嘉倫「俯瞰する力、具体的に堪える力」『文学部・文学研究科ブックレット 考えるということ』第4巻、2-9頁、2009
- Sato, Yoshimichi, "Review: Civil Society What and How: Jeffrey C. Alexander, *The Civil Sphere*. New York and Oxford: Oxford University Press, 2006," *International Sociology*, Vol. 24, No. 2, 262-272, 2009
- Sato, Yoshimichi, "Reviews: Locating Science: Hiromi Mizuno, *Science for the Empire: Scientific Nationalism in Modern Japan*. Stanford, CA: Stanford University Press, 2009," *International Sociology*, Vol. 25, 285-288, 2010
- Sato, Yoshimichi, "Rational Choice Theory," *Sociopedia*, 2010
- 佐藤嘉倫「現代日本の階層調査」日本社会学会社会学事典刊行委員会（編集）『社会学辞典』、378-379頁、丸善、2010
- 佐藤嘉倫「『思いつき』を大切に」、『曙光（東北大学全学教育広報）』、No. 31, 8-9, 2011
- [ 木村邦博 ]
- 木村邦博「競争と協同」日本社会心理学会（編集）『社会心理学事典』、342-343頁、丸善、2009
- 木村邦博「階層意識」松原望・美添泰人（編集委員長）『統計応用の百科事典』、466-469頁、丸善出版、2011
- [ 浜田宏 ]
- 浜田宏「書評 藤本昌代『専門職の転職構造 組織準拠性と移動』文眞堂、2005」『ソシオロジ』、第52巻第2号、126-129頁、社会学研究会、2007
- 浜田宏「書評リプライ 武藤氏の書評に答える」『理論と方法』、第24巻第1号、139-141頁、数理社会学会、2009
- 浜田宏「階層意識の数理社会学」日本社会学会社会学事典刊行委員会（編）『社会学事典』丸善株式会社、2010
- [ 本郷正武 ]（～2010.3）
- 本郷正武「書評に答えて（拙著『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』に対する宮垣元氏の書評に対して）」『ソシオロジ』166号、146-150

頁 , 2009

#### 1 - 4 口頭発表

##### ( 1 ) 国際学会

[ 佐藤嘉倫 ]

Sato, Yoshimichi, “Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market,” The 13th Brazilian Sociological Congress, Recife, Brazil, May 29-June 1, 2007.

Sato, Yoshimichi and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: An Analysis of the Interaction between Globalization and Local Institutions Focusing on Changes in Social Mobility of Middle Classes,” International Forum: Middle Class Research with Comparative Perspective, The 17th Annual Meeting of the Chinese Sociological Association, Changsha, Hunan, China, July 21-22, 2007.

Sato, Yoshimichi, “Local Social Capital, Global Social Capital, and Inequality: An Agent-based Model of the Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality,” The 102nd Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, August 11-14, 2007.

Sato, Yoshimichi, “Local Social Capital, Global Social Capital, and Inequality: An Agent-based Model of the Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality,” International Conference on Rational Choice and Social Institutions, Zurich, September 6-8, 2007.

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Preliminary Analysis of the 2005 SSM Data,” Yonsei International Conference, Yonsei University, Seoul, October 26-27, 2007

Sato, Yoshimichi, “Change in Income Inequality from 1995 to 2005 in Japan,” International Symposium on Inequality in the 21st Century: What Are the Main Challenges of Our Time?, The Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Tohoku University, Sendai, November 3-4, 2007.

Sato, Yoshimichi, “A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea,

- and Taiwan: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Data,” International Conference on East Asian Comparative Research, National Taiwan University, Taipei, November 24-25, 2007.
- Sato, Yoshimichi, “Disparity Society Theory and Social Stratification Theory: An Attempt to Respond to Challenges by Disparity Society Theory,” International Joint Symposium on “Socio-political Transformation in Globalizing Asia: Integration or Conflict?”, Waseda University, Tokyo, February 20-21, 2008.
- Sato Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in East Asia,” The 103rd Annual Meeting of the American Sociological Association, Boston, August 1-4, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” The 2008 Summer RC28 Meeting, Stanford, August 6-9, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” The First ISA Forum of Sociology, Barcelona, September 5-8, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Contributions of Rational Choice Theory to Public Debate,” The First ISA Forum of Sociology, Barcelona, September 5-8, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Survival Strategies in the Labor market: A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” Symposium on Globalization and Social Changes, Department of Sociology, Chung-Ang University, November 20-21, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Trust and Communication,” Interdisciplinary Symposium on “Social Network and Trust,” Kyung Hee University, November 29, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Space, Social Stratification, and Social Capital: The Case of Tokyo,” ISA-RC21 Tokyo Conference 2008 on Landscapes of Global Urbanism: Power, Marginality, and Creativity, International House of Japan, Tokyo, December 17-20, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Stability and Fluidization of the Social Stratification System

- in Contemporary Japan,” DIJ Forum, Deutsches Institut für Japanstudien, January 22, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Economic Inequality and Social Stratification in Contemporary Japan,” Seminar, Program on U.S.-Japan Relations, Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, February 17, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Space, Social Stratification, and Social Capital: The Case of Tokyo,” The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Department of Sociology, Yonsei University, March 12-13, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Are Asian Sociologies Possible?: Universalism versus Particularism,” ISA Conference of The Council of National Associations, Academia Sinica, Taiwan, March 23-25, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Stability and Fluidization of the Social Stratification System in Contemporary Japan,” Seminar at National Cheng-chi University, Taiwan, March 27, 2009.
- Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” Conference on Dilemmas of the Middle Class Around the World, Princeton University, April 24-25, 2009.
- Sato, Yoshimichi, and Yusuke Hayashi, “Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization,” 2009 Spring Meeting RC28, Renmin University, May 14, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization,” Joint Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification, University of California, Riverside, May 29-30, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Social Capital and Inequality: An Agent-based Model of Trust, Opportunity, and Structural Holes,” The 104th Annual Meeting of the American Sociological Association, San Francisco, August 10, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo,”

Brain Korea 21 Workshop, Korea University, August 20, 2009.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization,” 『日仏シンポジウム 排除なき社会をつくることはできるか：日本とフランスの視点』, 日仏会館, 2009年10月17-18日.

Sato, Yoshimichi, “Effect of Change in the Japanese Welfare-Employment Regime on Social Mobility between Regular and Non-regular Workers,” Employment Protection and Inequality Workshop, Harvard University, November 6, 2009.

Sato, Yoshimichi and Shin Arita, “A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” Korean Studies Colloquium and Issues in Contemporary East Asia Lecture Series, University of Pennsylvania, December 3, 2009.

Sato, Yoshimichi and Shin Arita, “A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” Inequality Research Group Seminar, Chung-Ang University, December 19, 2009.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization,” Équipe de Recherche sur les Inégalités Sociales Seminar, Équipe de Recherche sur les Inégalités Sociales, February 9, 2010.

Sato, Yoshimichi, “Institutions and Agency: A Theoretical First Step,” The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai Excel Hotel Tokyu, March 13-14, 2010.

Sato, Yoshimichi, “Does Agent-based Modeling Survive in Sociology?” The “Social Science and Social Computing: Steps to Integration” Workshop, Hyatt Regency Waikiki Resort and Spa, May 22-23, 2010.

Sato, Yoshimichi, “Social Networks, Utility Functions, and Social Capital,” The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 11-17, 2010.

Sato, Yoshimichi, “Why Did Asian Sociologists Not Conceive “Social

- Capital”? Universalism versus Particularism,” The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 11-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi, “The Emergence of Social Structure as A Micro-Macro Link: Social Networking and Beyond,” The 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, Atlanta, August 14-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” The 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, Atlanta, August 14-17, 2010.
- Sato, Yoshimichi, “New Middle Class at Risk in Japan?” The Second UC Riverside-Tohoku Joint Symposium, Tohoku University, November 19-20, 2010.
- Sato, Yoshimichi, “Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo,” The 10th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Kota Kinabaku, December 8-11, 2010.
- Sato, Yoshimichi, “Institutions and Inequality in the Status Attainment Process: A Theoretical Note,” The International Symposium on Risk, Social Stratification, and Changes in Institutions, Bryn Mawr College, February 3-4, 2011.
- Sato, Yoshimichi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Westin Sendai, January 29-30, 2011.
- Sato, Yoshimichi, “Japanese Youth without Bright Perspectives for Future,” The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Westin Sendai, January 29-30, 2011.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” International Conference on Internal Cleavages and Social Peace in East Asia, Chungnam University, Daejeon, South Korea, June 24, 2011.
- Sato, Yoshimichi, “New Middle Class at Risk in Japan?” The 106th Annual

Meeting of the American Sociological Association, Las Vegas, August 20-23, 2011.

[ 木村邦博 ]

Kimura, Kunihiro, "Trends of Sex Discrimination in Japan, 1965-2000: The Gender Gap in Wage and the 'Marriage Bar,'" (invited presentation) Conference on Global Studies of Discrimination, Princeton University, Princeton, New Jersey, USA, 2007 年 5 月 19 日

Kimura, Kunihiro, "Marriage, Sex Discrimination, and Inequality within the Sexes: Testing a Simple Model with the Data of Japan, 1965-2000," International Conference on Rational Choice and Social Institutions, ETH Zurich, Switzerland, 2007 年 9 月 8 日

Kimura, Kunihiro, "Marriage, Sex Discrimination, and Inequality within the Sexes: Testing a Simple Model with the Data of Japan, 1965-2005," Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Redondo Beach, California, USA, 2008 年 5 月 30 日

Kimura, Kunihiro, "Explaining a Marriage Paradox: Call for the Computer Simulation Studies Based on a Simple Mathematical Model," Workshop on Social Theory and Social Computing, Honolulu, Hawaii, USA, 2010 年 5 月 22 日

Kimura, Kunihiro, "Social Stratification and Relative Risk Aversion in the Japanese Context," XVII World Congress of Sociology, International Sociological Association, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 17 日

[ 浜田宏 ]

Ishida, Atsushi, Hiroshi Hamada, and Kenji Kosaka, "How Many People in the World Will Be Better Off by Redistribution of Wealth?: A Virtual Redistribution Analysis." The 8th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Penang, Malaysia, 19-22, November, 2007

Ishida, Atsushi, Hiroshi Hamada, and Kenji Kosaka, "A Simulation Analysis of Effects of Global Redistribution of Wealth on Subjective Well-being in the World," The 38th World Congress of International Institute of Sociology, Budapest, Hungary, June 26-30, 2008

Hiroshi Hamada, "A Model of Inequality and Educational Attainment in

Japan,” A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Stratification Studies, National University of Singapore, Singapore, February 18-19, 2009.

Hiroshi Hamada, “A Probability Model for Educational Attainment,” The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul, Korea, March 12-13, 2009

Hiroshi Hamada, “A Rational Choice Model of Educational Attainment,” The 9th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Bali, Indonesia, June 13 -15, 2009

Hiroshi Hamada, “A Model of Educational Attainment: Effect of Social Origin.” Logic, Game, Theory and Social Choice 6, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan, Aug 26-29, 2009

Hiroshi Hamada, “A Model of Class Differentials in Educational Attainment,” 17th ISA world congress of sociology, Gothenburg, Sweden, July 14, 2010

Hiroshi Hamada and Jae-Woo Kim, "Evolution of Cultural Groups from Parochial Cooperation: A Mathematical and Computational Study," 82nd Annual Pacific Sociological Association Meeting, Seattle, March 10-13, 2011.

Jae-Woo Kim and Hiroshi Hamada, "Replicator Dynamic of Tag-based Prisoner's Dilemma," American Sociological Association Meeting, August 20, 2011, Las Vegas, NV.

[ 永吉希久子 ]

Nagayoshi, Kikuko, “Cultural Difference of the Base of Moral: Comparative Analysis between Japan and the U.S.”, Seminar at Centre for Japanese Research in University of British Columbia, University of British Columbia , Canada, February 29, 2008

Nagayoshi, Kikuko, “Xenophobia as ‘Banal Nationalism’: Relationship between Anti-Immigrant Attitudes and Social Security”, MIM Seminar, Malmö University, Sweden, (April 15, 2009)

Nagayoshi, Kikuko, ”Effect of Welfare Policies on Anti-Immigrant Attitudes:



The Difference between Active Policies and Passive Policies”、American Sociological Association 104th Annual Meeting、Hilton San Francisco, USA, August 7-11 2009

Nagayoshi, Kikuko, 2010, “Effects of Multiculturalism Policies on Social Cohesion”、Nordic Migration Conference 2010, Malmö University, Sweden, August 25-27, 2010

[ 本郷正武 ] ( ~ 2010.3 )

Hongo, Masatake, “ Constructing Identity as Conscience Adherents: Identity politics in Japanese AIDS NGOs, ” Collective Behavior & Social Movement Workshop (Hofstra Univ., Long Island, NY), August 9, 2007

Hongo, Masatake, “ Involving with Collective Activities as Conscience Adherents: AIDS Workshops in Japanese AIDS NGOs, ” Society for the Study of Symbolic Interaction Annual Meeting (New York), August 12, 2007

Hongo, Masatake, “ Involving with Collective AIDS Activities as Conscience Adherents: Toward to Remedy of Isolated PWA/H in Japan, ” International Sociological Association, Research Committee on Social Movements, Collective Action and Social Change (RC48), Barcelona, Spain, September 6, 2008

## ( 2 ) 国内学会

[ 海野道郎 ] ( ~ 2008.3 )

海野道郎・篠木幹子「 “ KESAB ” はなぜ元気か？ 南オーストラリア州の環境 NPO の成功原因を探る 」第 54 回東北社会学会大会( 東北福祉大学 ) 自由報告、2007 年 7 月 21-22 日

篠木幹子・海野道郎・阿部晃士「 ごみ分別制度の特徴とコスト感がごみ分別行動に与える影響の分析 」つくば国際会議場 ( 茨城県つくば市竹園 2-20-3 ) 2007 年 11 月 19-21 日

[ 佐藤嘉倫 ]

佐藤嘉倫「 格差社会論と社会階層論 格差社会論からの挑戦に就いて 」、日本社会学会第 80 回大会シンポジウム「 格差社会 その現状と未来 」、関東学院大学、2007 年 11 月 17-18 日

佐藤嘉倫「大学院における社会調査教育の面白さと難しさ 東北大学行動科学研究室の事例」、関西学院大学 COE プログラム連続シンポジウム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」第4回「社会調査教育への提言と展望」、2007年12月8日

Grusky, David B., Yoshimichi Sato, Jan O. Jonsson, Satoshi Miwa, Matthew Di Carlo, Reinhard Pollak, and Mary C. Brinton, "Social Mobility in Japan: A New Approach to Modeling Trend in Mobility," 第45回数理社会学会大会、東京・成蹊大学、2008年3月16-17日

佐藤嘉倫「適度に開放的な安心集団が信頼を醸成する 社会学研究におけるエージェント・ベスト・モデルの一例」第81回日本社会学会大会テーマセッション(1)「社会学へのシミュレーションの可能性」、東北大学、2008年11月23-24日

佐藤嘉倫 "Trust, Assurance, and Inequality: A Rational Choice Model of Mutual Trust," 一橋ゲーム理論ワークショップ, 一橋大学, 2009年3月5-7日

佐藤嘉倫 "Space, Social Stratification, and Social Capital: The Case of Tokyo," 第47回数理社会学会, 京都産業大学, 2009年3月7-8日.

佐藤嘉倫 "Social Capital and Inequality: An Agent-based Model of Trust, Opportunity, and Structural Holes," 第48回数理社会学会大会, 北星学園大学, 2009年9月19-20日

佐藤嘉倫 "Why Did Asian Sociologists Not Conceive 'Social Capital'? Universalism versus Particularism," 第82回日本社会学会大会, 立教大学, 2009年10月11-12日

佐藤嘉倫 「数理社会学は社会学研究に役立つのか?」, 第50回数理社会学会, 獨協大学, 2010年9月11日

佐藤嘉倫, 「SSM調査について」, 一般社団法人社会調査協会 特別シンポジウム, 如水会館, 2010年11月14日

佐藤嘉倫, 「不平等の現状とその評価 - - 社会学の視点から」, 社会階層と不平等教育研究拠点・東京セミナーシリーズ 第2回公開シンポジウム「公正な社会は可能か 日本の不平等再検討」, 東北大学東京分室, 2011年2月12日

佐藤嘉倫, 「不平等の是正は可能か? - - 社会心理学の視点から」, 社会階

層と不平等教育研究拠点・東京セミナーシリーズ 第2回公開シンポジウム「公正な社会は可能か 日本の不平等再検討」, 東北大学東京分室, 2011年2月12日

佐藤嘉倫, 「公平な分配はどう社会に広がるのか? - - コンピュータ・シミュレーションへの招待」, 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会・公開シンポジウム「シミュレーションと社会—文理を結ぶ新しい方法論」, 日本学術会議大会議場, 2011年6月4日

[ 木村邦博 ]

木村邦博「『問い』を主題とした学説研究の重要性 科学としての社会学と歴史学としての社会学史の発展のために」(課題報告・招待講演)、第55回東北社会学会大会(福島大学)、2008年7月19日

木村邦博「カテゴリカルデータ分析におけるグラフィカル表示と数式」(特別セッション「統計解析に数式はいるか?」)、日本行動計量学会第36回大会(成蹊大学)、2008年9月5日

[ 浜田宏 ]

浜田宏「教育格差と世代間移動の合理的選択—MMI 仮説の数理モデル」、第44回数理社会学会大会、広島修道大学、2007年9月15日

浜田宏「N人ジレンマの提携」東北社会学会例会(東北大学)、2008年6月

浜田宏「提携形ゲームによるN人ジレンマの分析」第81回日本社会学会(東北大学)、2008年11月23日

浜田宏「演繹的研究のコアとしての数理モデル」第60回関西社会学会シンポジウム(京都大学)、2009年5月24日

浜田宏「社会学における数理モデルの可能性」第48回数理社会学会大会(北星学園大学)、2009年9月20日

浜田宏「階層帰属意識の数理モデル - - 非同一な離散型一様分布によるFKモデルの拡張」第49回数理社会学会(立命館大学)、2010年3月8日

浜田宏「教育達成における階層間格差の分布関数モデル IEOモデルとRRAモデルの統合と一般化」第50回数理社会学会(獨協大学)、2010年9月10日

高坂健次・石田淳・浜田宏、「相対的剥奪のパラドックス」第51回

数理社会学会大会（於：沖縄国際大学）．2011年3月8日．

[ 永吉希久子 ]

永吉希久子、「日本人のマイノリティ文化保護意識 ISSP2003 国際比較調査の分析から」、『関西社会学会第58回大会』、同志社大学、2007年5月26-27日

永吉希久子、「排外意識に対する脅威認知と接触の効果 JGSS-2003 の分析から」、『JGSS 研究発表会 2007』、大阪商業大学、2007年6月30日

永吉希久子、「社会統合に対する多文化主義政策の影響 国際比較調査データの分析から」『関西社会学会第61回大会』、名古屋市立大学、2010年5月29-30日

永吉希久子、「市民的特性に対する多文化主義政策の効果 ISSP2003・2004 を用いた国際比較研究」『2010年度二次分析研究会 参加者公募型研究 成果報告会』、東京大学、2011年2月4日

永吉希久子、2011、「反移民意識に対する社会保障政策の影響 積極的社会保障政策と消極的社会保障政策の差に注目して」『第84回日本社会学会大会』、関西大学、2011年9月17-18日

[ 本郷正武 ] ( ~ 2010.3 )

本郷正武「NPO / NGO に社会運動性を見出すことの意義 HIV / AIDS をめぐる集合行為を事例として」(テーマセッション)、日本社会学会大会、関東学院大学、2007年11月18日

本郷正武「薬害 HIV 訴訟期の感染被害者の社会参加への道筋 『良心的支持者』としてのアイデンティティの獲得」、日本社会学会大会、東北大学、2008年11月24日

本郷正武「障害児をもつ親の会の「衰退」にみる親密圏の機能と役割」日本保健医療社会学会大会、熊本大学、2009年5月16日

## 2 教員の受賞歴 (2007 ~ 2011 年度)

佐藤嘉倫、2008年度、Book Award for Scholarly Excellence, Ministry of Culture, Sports and Tourism, Korea

永吉希久子、2007年度、JGSS 公募論文 2007 優秀論文

## 教員による競争的資金獲得 (2007 ~ 2011 年度)

## ( 1 ) 科学研究費補助金

### 2007 年度

#### [ 海野道郎 ]

研究代表者 基盤研究(B)(海外調査) 「オーストラリアの廃棄物問題  
アデレード・メルボルンにおける多水準分析の試み」、2006(平成18)  
年度 - 2008(平成20)年度 (2006年度:1,600千円)

#### [ 原 純輔 ]

研究代表者 萌芽研究 「学術資源学の視点からみた戦後日本における  
社会調査の展開と継承」、120万円

#### [ 佐藤嘉倫 ]

研究代表者 特別推進 「現代日本階層システムの構造と変動に関する  
総合的研究」、直接経費 3,270万円、間接経費 981万円

#### [ 木村邦博 ]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生のアスピレーション  
と社会意識の形成過程」(2006(平成18)年度 - 2008(平成20)年度)、  
直接経費 2,000千円、間接経費 600千円

研究分担者 萌芽研究 研究代表者:原純輔(東北大学) 「学術資源  
学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」(2006(平  
成18)年度 - 2008(平成20)年度)

#### [ 本郷正武 ]

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:好井裕明(筑波大学) 「被害当  
事者・家族のライフヒストリーの社会学的研究 薬害 HIV 感染被害問  
題を中心に」(2005(平成17)年度 - 2007(平成19)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:山田富秋(松山大学) 「「薬害  
HIV」問題経験の社会学的研究 ナラティブ・アプローチから」(2007  
(平成19)年度 - 2009(平成21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「持続  
可能な都市形成に与えるソーシャルキャピトルの高価の国際比較」  
(2007(平成19)年度 - 2008(平成20)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「地域  
社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成19)  
年度 - 2009(平成21)年度)

## 2008 年度

### [ 原 純 輔 ]

研究代表者 萌芽研究 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」、70 万円

### [ 佐藤嘉倫 ]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明 ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 970 万円、間接経費 291 万円

### [ 木村邦博 ]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生のアスピレーションと社会意識の形成過程」(2006(平成18)年度 - 2008(平成20)年度)、直接経費 2,300 千円、間接経費 690 千円

連携研究者 萌芽研究 研究代表者：原純輔(東北大学) 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」(2006(平成18)年度 - 2008(平成20)年度)

### [ 浜田宏 ]

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：高坂健次(関西学院大学) 「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成20)年度 - 2010(平成22)年度)

### [ 本郷正武 ]

研究代表者 若手研究(B) 「「薬害 HIV 訴訟」プロセスにおける当事者の社会的孤立の検討」(2008(平成20)年度 - 2010(平成22)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：山田富秋(松山大学) 「「薬害 HIV」問題経験の社会学的研究 ナラティブ・アプローチから」(2007(平成19)年度 - 2009(平成21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：長谷川公一(東北大学) 「持続可能な都市形成に与えるソーシャルキャピタルの高価の国際比較」(2007(平成19)年度 - 2008(平成20)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：長谷川公一(東北大学) 「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成19)年度 - 2009(平成21)年度)

## 2009 年度

### [ 佐藤嘉倫 ]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明 ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 970 万円、間接経費 291 万円

[ 木村邦博 ]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成 21)年度 - 2012(平成 24)年度)、直接経費 1,800 千円、間接経費 540 千円

[ 浜田宏 ]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」(2009年(平成 21) - 2011年(平成 23年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：高坂健次(関西学院大学)「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成 20)年度 - 2010(平成 22)年度)

[ 本郷正武 ]

研究代表者 若手研究(B) 「『薬害 HIV 訴訟』プロセスにおける当事者の社会的孤立の検討」(2008(平成 20)年度 - 2010(平成 22)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：種田博之(産業医科大学)「『薬害 HIV』問題経験の社会学的研究 ナラティブ・アプローチから」(2007(平成 19)年度 - 2009(平成 21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：長谷川公一(東北大学)「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成 19)年度 - 2009(平成 21)年度)

## 2010 年度

[ 佐藤嘉倫 ]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明 ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 1360 万円、間接経費 408 万円

[ 木村邦博 ]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成 21)年度 - 2012(平成 24)年度)、直接経費 2,400 千円、間接経費 720 千円

[ 浜田宏 ]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」(2009年(平成 21) - 2011年(平成 23年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：高坂健次（関西学院大学）「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成20)年度 - 2010(平成22)年度)

#### 2011年度

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成21)年度 - 2012(平成24)年度)、直接経費 2,400千円、間接経費 720千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」(2009年(平成21) - 2011年(平成23)年度)

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者：吉川徹（大阪大学）「現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費 300万円、間接経費 90万円(2011年(平成23) - 2015年(平成27)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：石田淳（関西学院大学）「グローバル化下での不平等社会における相対的剥奪 理論・実証的研究の刷新」(2011(平成23)年度 - 2013(平成25)年度)

[永吉希久子]

研究代表者 研究活動スタートアップ支援 「移民統合政策が移民の社会参加に与える影響についての実証研究」、直接経費 70万円、間接経費 21万円

## (2) その他

#### 2007年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250万円、間接経費 825万円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE 人材育成オフィス長 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250万円、間接経費 825万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点



の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

[ 木村邦博 ]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

#### 2008 年度

[ 原 純輔 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

[ 佐藤嘉倫 ]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

申請者 日本学術振興会・国際学会等派遣事業 「Rational Choice of Career Aspiration under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in East Asia 第 103 回アメリカ社会学会における論文報告」 205,530 円

申請者 (財)学術振興野村基金 「日本・韓国・台湾における労働市場とキャリア形成の比較研究 第 1 回社会学フォーラムにおける論文報告と諸活動」 20 万円

開催責任者 日本学術振興会・国際研究集会 「国際社会学会・社会学博士課程学生のための国際ラボラトリー」 2,138 千円

[ 木村邦博 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

[ 浜田宏 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

#### 2009 年度

[ 佐藤嘉倫 ]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

開催責任者 日本学術振興会・国際研究集会 「国際社会学会・社会学博士課程学生のための国際ラボラトリー」 4,291,386 円

[ 木村邦博 ]

事業推進担当者・マイノリティ研究部門長 グローバル COE プログラム  
「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万  
円、間接経費 3,003 万円

[ 浜田宏 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研  
究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

#### 2010 年度

[ 佐藤嘉倫 ]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究  
拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

申請者 公益財団法人野村財団国際交流（海外派遣）「日本の流動化す  
る労働市場と転職をめぐる階層格差の分析 第 105 回アメリカ社会  
学会大会における論文報告と諸活動」、20 万円

[ 木村邦博 ]

事業推進担当者・マイノリティ研究部門長 グローバル COE プログラム  
「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万  
円、間接経費 0 万円

[ 浜田宏 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研  
究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

研究担当者 学術調査官受託研究「社会学に関する最新の学術動  
向の調査研究」直接経費 65 万円

#### 2011 年度

[ 佐藤嘉倫 ]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究  
拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

研究代表者 公益財団法人村田学術振興財団研究助成「グローバリゼー  
ションの進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動  
に関する融合的研究」、200 万円

[ 木村邦博 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研

究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

[ 浜田宏 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

[ 永吉希久子 ]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

### 教員による社会貢献（2007～2011 年度）

#### （1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

海野道郎（～2008.3）

2006 年 7 月 1 日 - 2008 年 6 月 30 日 仙台市廃棄物対策審議会委員

2007 年 4 月 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員

2007 年 5 月 1 日 - 平成 20(2008)年 3 月 31 日 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 「統計数理研究書共同利用体制外部評価委員」

2007 年 6 月 21 日 - 2008 年 3 月 20 日 独立行政法人国立環境研究所地球推進費 H-052 「ライフスタイル変革のための有効な情報伝達手段とその効果に関する研究」アドバイザー・ボード

原 純輔（～2009.3）

2002 年 4 月 - 現在 （財）日本性教育協会理事

2003 年 11 月 - 2008 年 12 月 社会調査士資格認定機構理事

2004 年 4 月 - 2008 年 3 月 （財）松下国際財団研究助成選考委員

2006 年 8 月 - 現在 日本学術会議連携会員

佐藤嘉倫

1996 年 6 月 - 現在 東北地方ダム管理フォローアップ委員会委員

2006 年 8 月 20 日 - 現在 日本学術会議連携会員

2008 年 1 月 16 日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会人文・社会系委員会特別推進研究審査意見書作成者

2008 年 6 月 9 日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会研究課題提案型委員会「新学術領域研究(研究課題提案型)」

#### 書面レフェリー

2008年8月1日 - 現在 先端科学(FoS)シンポジウム事業委員会専門委員

2009年12月1日 - 2010年11月30日 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

2009年12月1日 - 2010年11月30日 文部科学省 科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者

2010年12月1日 - 2011年11月30日 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

#### 浜田宏

2010年8月1日 - 現在 文部科学省学術調査官

## (2) 公開講座等の講師

#### 佐藤嘉倫

2007年8月25日 東北大学100周年記念まつり「東北大名物教授のポケットセミナー」講師「将来が見えない若者たち 家庭・教育・労働市場の再構築」

2007年10月22日 慶応義塾大学21世紀COEプログラム多文化市民意識研究センター講演会講師「地球市民意識と不平等」

2007年12月1日 大東文化大学経済研究所第27回経済シンポジウム「格差社会の現実と展望 豊かな社会の実現に向けて」講師「格差社会論と社会階層論 格差社会論からの挑戦に込めて」

2008年5月11日 財団法人メンタルケア協会 第107回メンタルケア・スペシャリスト養成講座(仙台会場)講師「将来の見えない若者たち 家庭・教育・労働市場の再構築—」

2009年5月3日 財団法人メンタルケア協会 第107回メンタルケア・スペシャリスト養成講座(仙台会場)講師「将来の見えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築」

2009年7月28日 Tohoku University Summer Program 2009 Lecturer “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior.”

2009年8月2日 東北大学関東交流会 講師 「人間関係は犯罪を防

げるか？ 東京を事例として」

2010年4月9日 東北大学リベラルアーツサロン 講師 「公平な分配はどう社会に広がるのか？ コンピュータ・シミュレーションへの招待」

2010年4月11日 財団法人メンタルケア協会 第120回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2010年8月5日 Tohoku University Summer Program 2010 Lecturer "An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness."

2011年8月1日 Tohoku University Summer Program 2011 Lecturer "An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness."

木村邦博

2008年7月30日 第47回東北地区私学教育研修会・生徒指導部会 講演（仙台ガーデンパレス）「高校生の規範意識の現状をどうとらえるか 『教育と社会に対する高校生の意識』第6次調査から」

2009年6月4日 平成21年度仙塩地区高等学校長会講話（KKR ホテル仙台）、「仙台圏の高校生の20年」

2009年8月10日 宮城県高等学校社会科教育研究会第33回ワークショップ 共同講演（ゆと森 倶楽部 蔵王ハイツ）「仙台圏の高校生の20年、そして現在」

2010年7月21日 宮城県高校教育課 高大連携事業 地域開催公開講座 平成22年度 Samuma Summer University（宮城県佐沼高等学校） 「血液型性格学の流行を行動科学で考える」

浜田宏

2009年12月12日 組織的な大学院教育改革推進プログラム人間科学データによる包括的専門教育 特別シンポジウム「格差社会における階層意識の現状と課題」講師「階層帰属意識の数理モデルの展開」

### （3）NPO・NGO法人・民間企業との協力関係等

海野道郎（～2008.3）

2007年度 宮城県生活協同組合連合会「レジ袋有料化条例草案作成

WG」アドバイザー

佐藤嘉倫

2009年9月 - 2009年11月 国連大学グローバルセミナー第8回東北セッション実行委員

木村邦博

2009年4月 - 現在 東北工業大学高等学校評価委員(委員長)

2009年9月 - 2011年3月 一般社団法人社会調査協会 機関誌『社会と調査』専門査読委員

2010年5月 - 現在 宮城県宮城広瀬高等学校学校評議員

本郷正武(～2010.3)

2003年2月 - 現在 東北 HIV コミュニケーションズ 事務局次長

**教員による学会役員等の引き受け状況(2007～2011年度)**

海野道郎(～2008.3)

2005年8月 - 2007年7月 東北社会学会 会長

2005年8月 - 2007年8月 廃棄物学会東北支部 副支部長

2006年11月 - 2009年11月 日本社会学会 財務理事

佐藤嘉倫

2003年11月 - 2009年10月 日本社会学会国際交流委員

2005年10月 - 2008年7月 日本社会学会将来計画特別委員

2006年7月 - 現在 国際社会学会理事

2006年7月 - 2010年7月 国際社会学会合理的選択部会長

2007年 アメリカ社会学会数理社会学部会 論文賞選考委員

2007年 International Conference on Rational Choice and Social Institutions 大学院生論文賞選考委員長

2007年9月 - 2009年3月 数理社会学会第7回論文賞選考委員会委員

2008年4月1日 - 2009年3月31日 2008年度数理社会学会役員等選挙の選挙管理委員(委員長)

2008年7月14日 - 現在 日本社会学会世界社会学会議組織委員

2008年 アメリカ社会学会数理社会学部会 大学院生論文賞選考委員

2008年 RC45, The First ISA Forum of Sociology 大学院生論文

### 賞選考委員長

2009年12月 - 現在 日本社会学会国際化戦略特別委員会委員

2010年7月 - 現在 国際社会学会合理的選択部会理事

2010年7月 - 現在 国際社会学会概念・用語分析部会副会長（アジア担当）

2010年8月 - 2011年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会最優秀論文賞選考委員長

2010年9月 日本行動計量学会第38回大会企画委員

2011年8月 - 現在 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会長

### 木村邦博

2006年4月 - 2009年3月 日本行動計量学会理事

2007年10月 - 2011年9月 日本教育社会学会編集委員

2009年4月 - 現在 日本行動計量学会欧文機関誌編集委員

2009年7月 - 2011年7月 東北社会学会理事

### 浜田宏

2007年9月 - 2009年3月 数理社会学会第7回論文賞選考委員会委員

2009年4月 - 2011年3月 数理社会学会理事（研究理事）

2010年4月 - 現在 日本社会学会編集委員会専門委員

2011年4月 現在 数理社会学会理事（『理論と方法』編集委員会委員長）

2011年4月 現在 数理社会学会研究活動委員

### 本郷正武（～2010.3）

2007年7月 - 2009年7月 東北社会学会理事

2009年7月 - 現在 東北社会学会編集委員

## 教員の教育活動

### （1）学内授業担当（2011年度）

#### 1 大学院授業担当

教授 佐藤嘉倫

数理行動科学研究演習Ⅰ 「社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル」

数理行動科学研究演習Ⅱ 「エージェント・ベースト・モデルによる自

己組織性の解明」

社会行動科学特論 I ( Karen Shire デュースブルク・エッセン大学教授および今井順助教と共同開講 ) 「 Employment in East Asian Societies 」

社会行動科学特論 II ( 今井順助教と共同開講 ) 「 Issues of Employment Relations in Japan 」

計量行動科学特論 「 格差と不平等の社会学 」

課題研究 ( 行動科学 )

教授 木村邦博

計量行動科学研究演習 II 「 社会調査法への認知科学的アプローチ 」

課題研究 ( 行動科学 )

准教授 浜田宏

数理行動科学研究演習 III 「 社会現象への数理的アプローチ 」

数理行動科学研究演習 IV 「 社会現象のモデル化とコンピュータによる計算 」

課題研究 ( 行動科学 )

准教授 永吉希久子

計量行動科学演習 「 ナショナリズムの計量分析 」

課題研究 ( 行動科学 )

## 2 学部授業担当

教授 佐藤嘉倫

行動科学概論 「 マイクロ・マクロ問題入門 」

行動科学概論 「 ゲーム理論入門 」

行動科学基礎演習 「 行動科学の基礎技術 」

行動科学基礎実習 「 多変量解析実習 」

行動科学基礎実習 「 社会調査演習 」

行動科学演習 「 社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル 」

行動科学演習 「 エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明 」

行動科学各論 ( Karen Shire デュースブルク・エッセン大学教授および今井順助教と共同開講 ) 「 Employment in East Asian Societies 」



行動科学各論(今井順助教と共同開講)「Issues of Employment Relations in Japan」

行動科学各論「格差と不平等の社会学」

教授 木村邦博

行動科学概論「社会調査の基礎」

行動科学概論「社会調査の実際」

行動科学基礎実習 「多変量解析演習」

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」

行動科学基礎実習 「社会調査演習」

准教授 浜田宏

行動科学基礎実習 「多変量解析演習」

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」

行動科学基礎実習 「社会調査演習」

行動科学基礎演習 「行動科学的研究の基礎」

行動科学各論 「階層と不平等のメカニズム」

行動科学演習 「社会現象への数理的アプローチ」

行動科学演習 「社会現象のモデル化とコンピュータによる計算」

准教授 永吉希久子

計量行動科学演習 「ナショナリズムの計量分析」

行動科学演習「ナショナリズムの計量分析」

行動科学基礎実習「社会調査演習」

行動科学演習「多変量解析による社会意識研究」

### 3 共通科目・全学科目授業担当

#### (2) 他大学への出講(2007~2011年度)

海野道郎(～2008.3)

2007年9月 明治学院大学心理学部非常勤講師「現代社会と心理」

原純輔(～2009.3)

2005年4月 - 現在 放送大学「社会調査」「社会階層と不平等」

佐藤嘉倫

2007年4月 - 現在 放送大学

2007年8月 青森公立大学

2008年12月 青森公立大学

2010年12月 名古屋大学

2011年5月 - 6月 インドネシア大学大学院

木村邦博

2007年4月 - 2007年8月 東北学院大学「社会学」

2007年9月 学習院大学大学院法学研究科「共同基礎演習Ⅰ」

浜田宏

2008年4月 - 2011年3月 放送大学「幸福の社会理論」（分担講師）

2010年8月 大阪大学大学院「数理社会学特講」

永吉希久子

2011年10月 津田塾大学「Japanese Society」（オムニバス授業）

本郷正武（～2010.3）

2007年4月 - 7月 東北薬科大学「現代の社会Ⅲ」

2008年4月 - 7月 東北薬科大学「現代の社会Ⅲ」

2008年4月 - 7月 尚絅学院大学「社会ネットワーク論」

2009年4月 - 7月 東北薬科大学「現代の社会Ⅲ」

2009年4月 - 7月 尚絅学院大学「質的研究」「社会ネットワーク論」

2009年8月 岩手県立大学「市民活動論」（集中講義）

2009年9月 - 2010年1月 尚絅学院大学「NPO・ボランティア論」